

小樽市経済動向調査結果

1. 調査期間：2023年7月から9月
2. 調査対象：小樽市内の企業269社
3. 内 訳：製造業58、卸売業27、小売業44、運輸・倉庫業20、観光業46
サービス業39、建設業35
4. 回答企業数：164社（60.9%）
5. 調査方法：調査票によるアンケート

※DI（景気動向指数：ディフュージョン・インデックス）とは・・・

好転（増加）企業割合から悪化（減少）企業割合を差し引いた値のことで、この数値がプラスかマイナスか、そしてその大きさによって景気の動きを時期的な推移の中で把握します。

概 況

－業況、売上、採算全てプラス水準で推移、約半数の企業で従業員が不足－ 前年同期（2022年7月～9月）と比べた今期（2023年7月～9月）の状況 今期と比べた来期（2023年10月～12月）の予想

企業の景況感を示す業況判断DIは22.3で、前年同期と比べ16.2ポイント上昇しました。業況は5期連続、売上は6期連続のプラス水準で、採算は各種経費の高騰により低調に推移しましたが、2期連続プラス水準で推移しました。卸売業、小売業、観光業では主要3項目DI全てがプラスとなりましたが、運輸・倉庫業では業況と採算が、建設業では採算がマイナスとなりました。前期に引き続き、原材料価格や燃料費の高騰、経済活動や人流の増加に伴う従業員不足が課題で、約半数の企業で従業員が不足しています。

業種別業況DIは、製造業が同49.6ポイント上昇の29.0となりました。売上DIはプラス幅を伸長し、採算DIは0.0となりました。プラスチックは8割強の企業で採算と業況が好転しましたが、金属製品は約7割の企業で採算が悪化しました。卸売業は同38.8ポイント上昇の23.8となり、主要3項目DI全てが大幅に上昇しました。食料品の9割弱の企業で売上が増加しました。小売業は同33.7ポイント上昇の21.7となり、採算DIもプラスに転じました。大型店では全ての企業で商品仕入単価が上昇しましたが、8割強の企業で客単価が上昇しました。運輸・倉庫業は同30.7ポイント低下の▲7.2となりました。旅客は7割超の企業で売上が増加しましたが、貨物では4割弱、倉庫では3割弱の企業で売上が減少しました。旅客では全ての企業で従業員が不足しています。観光業は同6.1ポイント低下の58.6となり、主要3項目DI全てが6期連続のプラス水準となりました。全ての企業で利用客数が増加し、外国人客数DIは前年同期の2.9から78.5へ大幅に上昇しました。また、宿泊業の平均客室稼働率は79.4%と高水準でした。約3割の企業では従業員を増やしても不足が解消されておらず、深刻な人手不足にある状況が伺えます。サービス業は同6.3ポイント上昇の21.7となり、採算DIはマイナス水準を脱しました。飲食店は8割強の企業で売上が増加し、全ての企業で仕入単価が上昇しました。建設業は同22.3ポイント上昇の8.7となり、プラス水準に移行しましたが、採算DIはマイナス水準での推移となりました。従業員DIはプラス幅を拡大しましたが、約6割の企業で従業員が不足しています。

来期の業況判断DIは0.2で、好転傾向が弱まると予想しています。閑散期にあたる企業が増加するため、全ての業種で主要3項目DIのプラス幅縮小、マイナス水準への移行が予想されます。また、物価高騰や従業員不足に加え、最低賃金の上昇による採算の悪化も見込まれます。

業況、売上、採算

今期（2023.7～9）の業況判断DIは22.3で、前年同期（2022.7～9）と比べ16.2ポイント上昇しました。

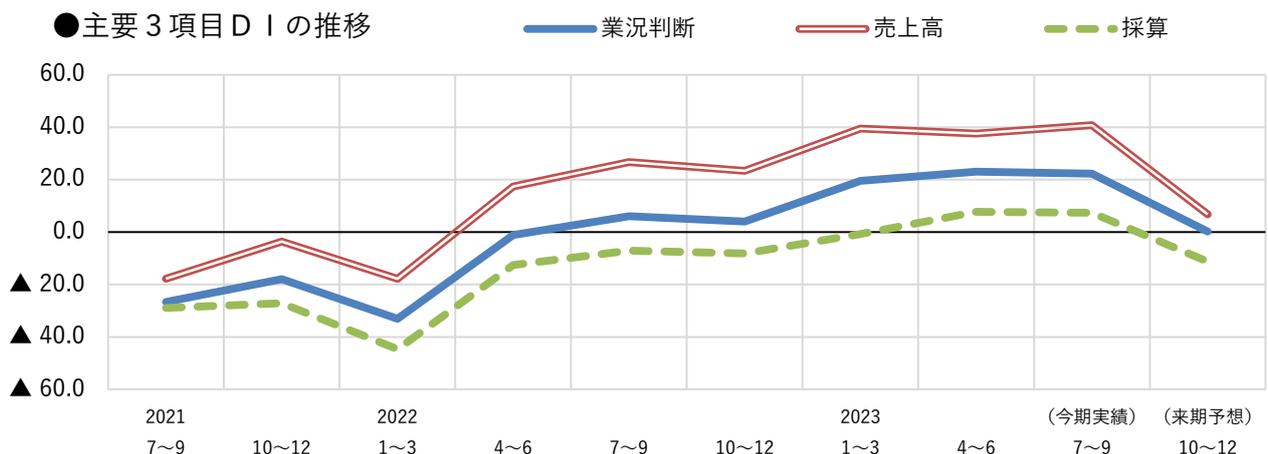
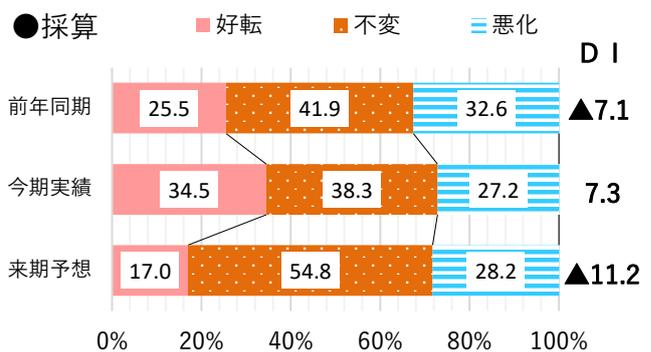
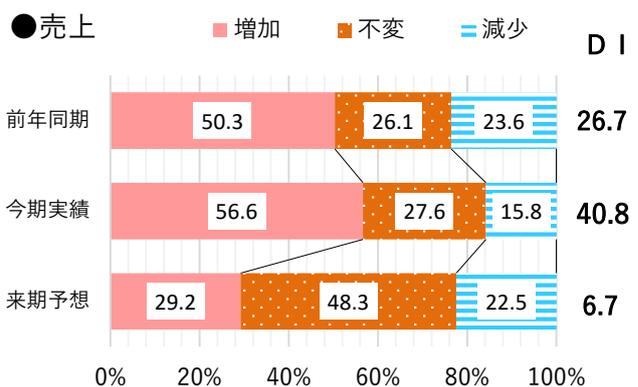
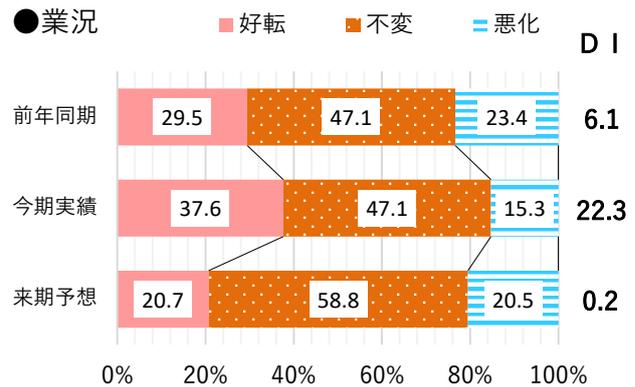
来期（2023.10～12）は、業況の好転傾向が弱まると予想しています。

今期の売上DIは40.8で、前年同期と比べ14.1ポイント上昇しました。

来期は、売上の増加傾向が大幅に弱まると予想しています。

今期の採算DIは7.3で、前年同期と比べ14.4ポイント上昇し、プラスに転じました。

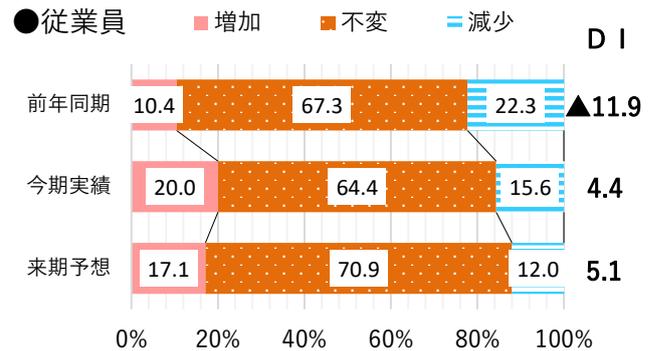
来期は、採算がマイナスに転じると予想しています。



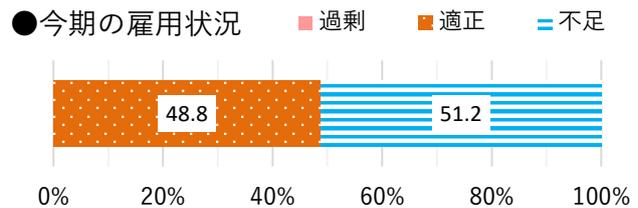
従業員、今期の雇用状況

今期の従業員DIは4.4で、前年同期と比べ16.3ポイント上昇しプラスに転じました。

来期は、従業員数に大きな変化はないと予想しています。



今期の雇用状況について、自社の従業員数が過剰であると回答した企業はなく、適正であると回答した企業の割合は48.8%、不足していると回答した企業の割合は51.2%でした。



従業員数と雇用状況の相関関係について、最も多かったのは「従業員数は前年同期比で変わらず、充足している」という回答で、38.4%を占めました。

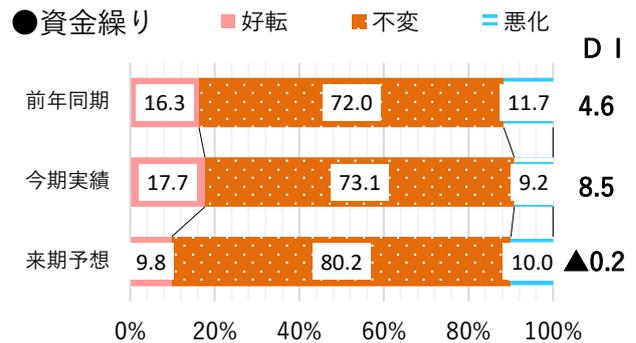
約半数の企業で従業員が不足している状況にあります。

今期従業員数	今期の雇用状況	回答数
増加した	過剰	0
	適正	13
	不足	22
不変だった	過剰	0
	適正	63
	不足	40
減少した	過剰	0
	適正	4
	不足	22

資金繰り、設備投資

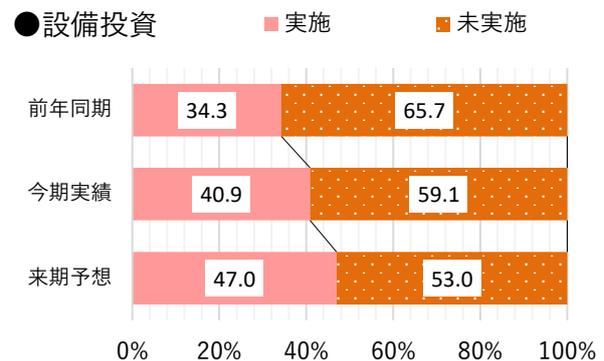
今期の資金繰りDIは8.5で、前年同期と比べ3.9ポイント上昇しました。

来期は、資金繰りがマイナスに転じると予想しています。



新規設備投資の動向では、回答のあった164社の40.9%にあたる67社が実施、前年同期と比べ6.6%上昇しました。投資内容は、1位が「車両運搬具・輸送機材」、「付帯施設」（同位）2位が「OA機器」の順です。

来期は、47.0%にあたる77社が設備投資を計画していると回答しています。

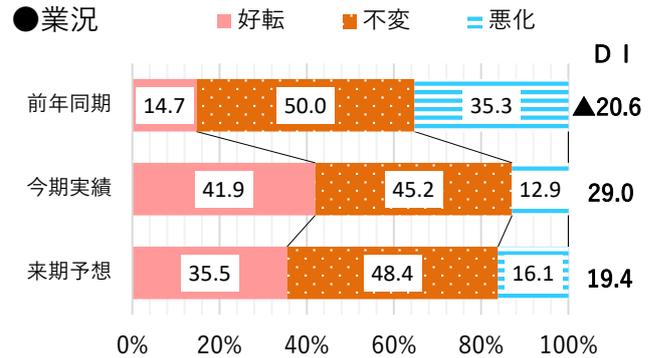


製造業

業況、売上、採算

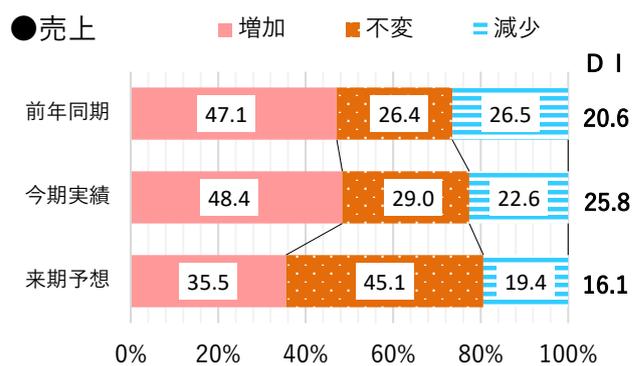
今期(2023.7~9)の業況判断DIは29.0で、前年同期(2022.7~9)と比べ49.6ポイントと大幅に上昇し、プラスに転じました。

来期(2023.10~12)は、業況の好転傾向が弱まると予想しています。



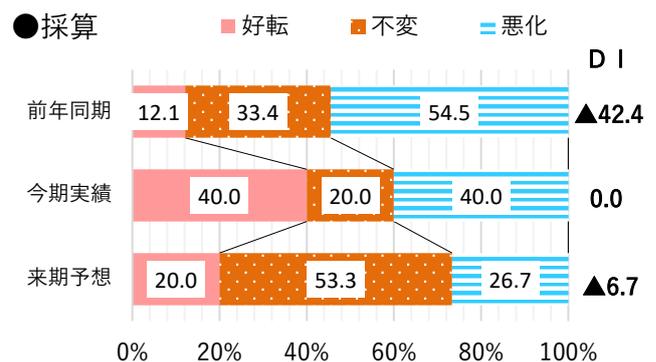
今期の売上DIは25.8で、前年同期と比べ5.2ポイント上昇しました。

来期は、売上の増加傾向が弱まると予想しています。

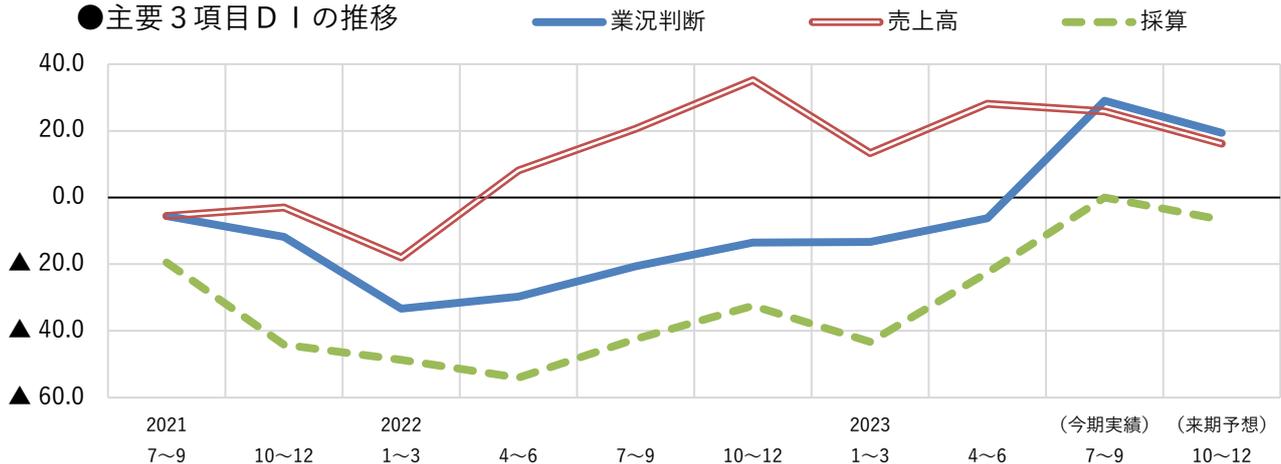


今期の採算DIは0.0で、前年同期と比べ42.4ポイントと大幅に上昇しました。

来期は、採算がマイナスに転じると予想しています。



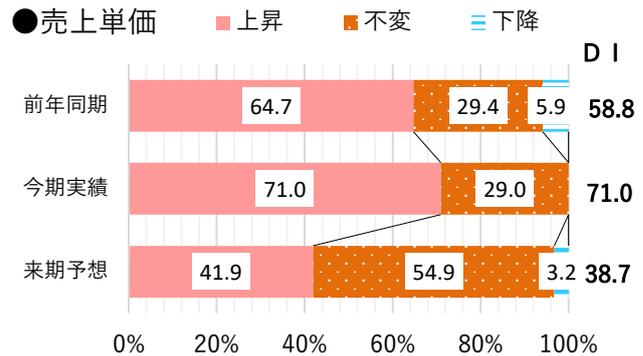
●主要3項目DIの推移



売上（加工）単価、原材料仕入単価、設備操業率

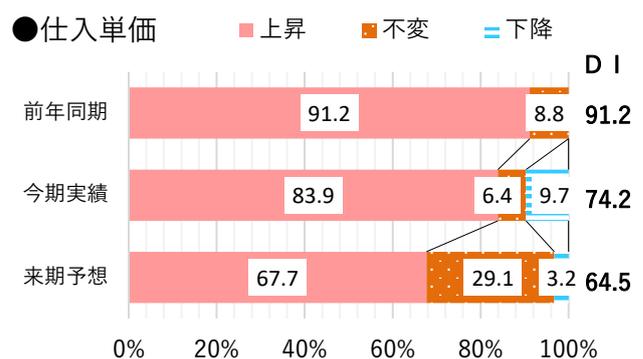
今期の売上単価DIは71.0で、前年同期と比べ12.2ポイント上昇しました。

来期は、売上単価の上昇傾向が大幅に弱まると予想しています。



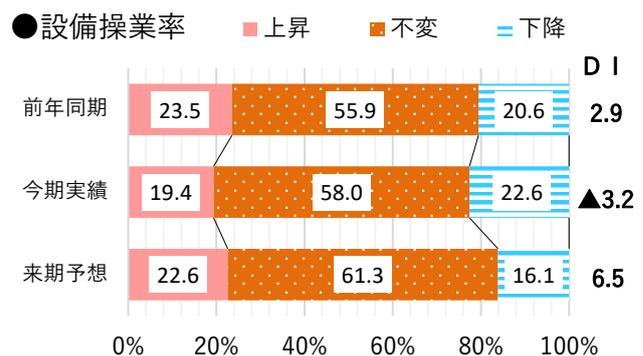
今期の仕入単価DIは74.2で、前年同期と比べ17.0ポイント低下しました。

来期は、仕入単価の上昇傾向が続くと予想しています。



今期の設備操業率DIは▲3.2で、前年同期と比べ6.1ポイント低下し、マイナスに転じました。

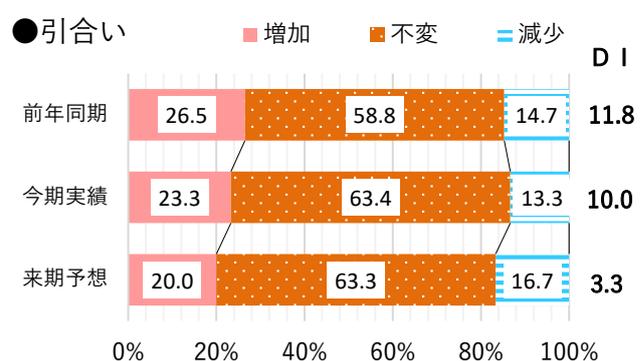
来期は、設備操業率がプラスに転じると予想しています。



引合い

今期の引合いDIは10.0で、前年同期と比べ1.8ポイント低下しました。

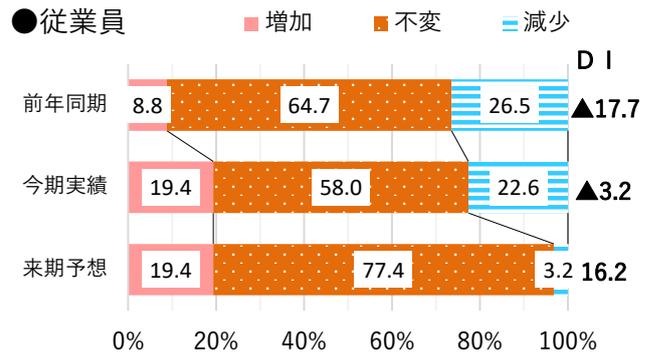
来期は、引合いの増加傾向が弱まると予想しています。



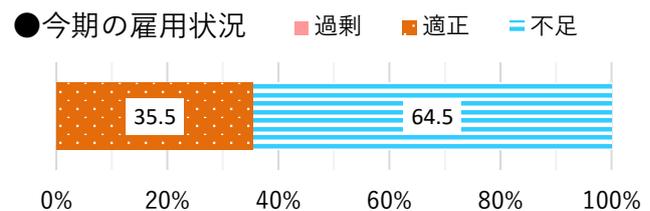
従業員、今期の雇用状況

今期の従業員DIは▲3.2で、前年同期と比べ14.5ポイント上昇しました。

来期は、従業員数がプラスに転じると予想しています。



今期の雇用状況について、自社の従業員数が過剰であると回答した企業はなく、適正であると回答した企業の割合は35.5%、不足していると回答した企業の割合は64.5%でした。



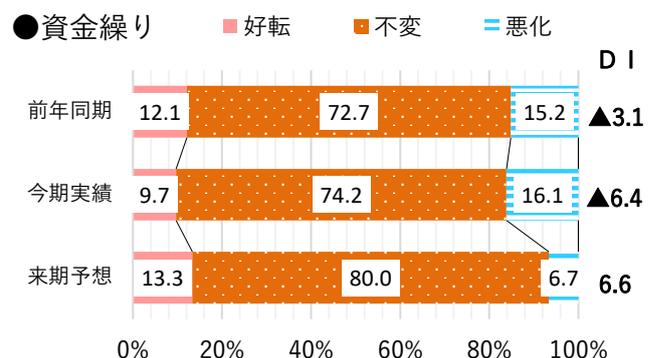
従業員数と雇用状況の相関関係について、最も多かったのは、29.0%を占めた「従業員数は前年同期比で変わらず、充足している」、「従業員数は前年同期比で変わらず、不足している」（同位）という回答でした。6割超の企業で従業員が不足している状況にあります。

今期従業員数	今期の雇用状況	回答数
増加した	過剰	0
	適正	2
	不足	4
不変だった	過剰	0
	適正	9
	不足	9
減少した	過剰	0
	適正	0
	不足	7

資金繰り、設備投資

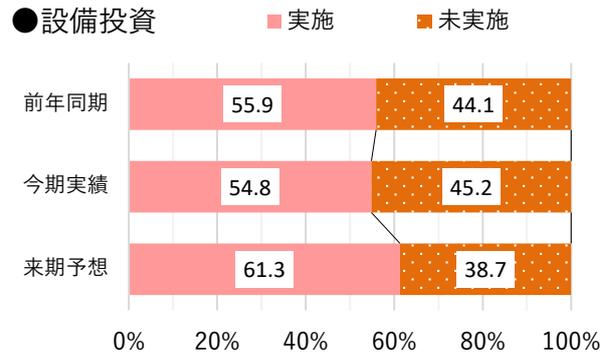
今期の資金繰りDIは▲6.4で、前年同期と比べ3.3ポイント低下しました。

来期は、資金繰りがプラスに転じると予想しています。



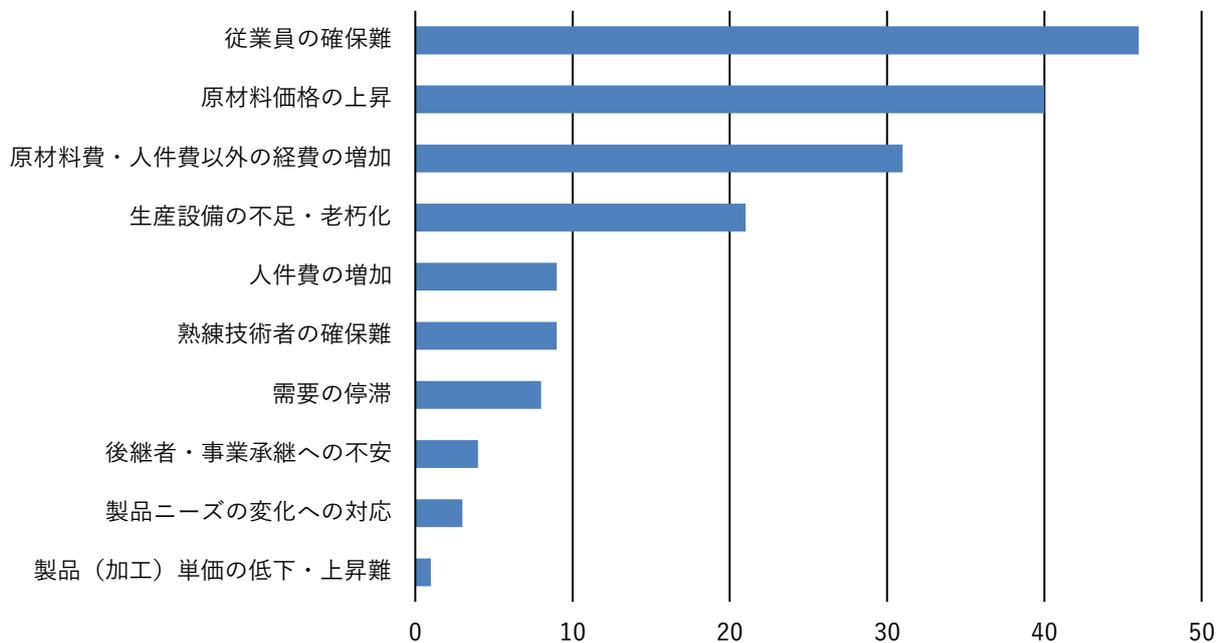
設備投資を実施した企業の割合は54.8%で、前年同期と比べ1.1%低下しました。投資内容は、1位が「生産設備」、2位が「付帯施設」の順です。

来期に設備投資を計画している企業の割合は61.3%で、増加を予想しています。



経営上の問題点

今期直面している経営上の課題は、1位が「従業員の確保難」、2位が「原材料価格の上昇」、3位が「原材料費・人件費以外の経費の増加」の順です。



企業の声

[今期の業況について]

- 札幌駅周辺やラピダスなど大型案件の話は多いが、原材料価格や労務費の上昇による急激な建設コストの高騰により施工単価が合意に達せず、計画延期や中止も確認され、不透明感が強い。（金属製品）
- 商品の需給バランスの変化と好天に恵まれたことで、夏物商品の価格改定は比較的順調に進んだが、依然として仕入価格の上昇、運賃を始めとする諸経費の上昇、人材確保は困難な状況だ。（食料品）
- 原材料の仕入価格上昇により採算が悪化した。深刻な人手不足のため出荷の遅れが常態化しており、売上につながらず苦しい状況だ。（食料品）
- 売上は横ばいで、仕入価格は上昇傾向にある。年末に向けて人員は確保できている。（食料品）
- 売上は増加したが、原材料価格や資材価格高騰の影響が大きい。（食料品）
- 従業員を募集しても応募がない。（食料品）
- 外国人観光客の増加により業績が回復傾向にある。（飲料）

- 業務用商品の売上が増加した。（飲料）
- 製品の値上げにより、売上は1割程増加した。原料を安価なものに切り替えたことで、仕入価格はやや減少した。電気料金や物流コストの増加、大手販売先への価格転嫁が課題だ。当面必要な従業員数は確保できており、賃金のベースアップを実施した。（プラスチック）
- 価格転嫁は一部を除き完了した。原材料仕入価格は高騰が続いている。パートの時給を1,000円以上に引き上げたが、求人に対する反応はない。（プラスチック）
- 売上は対前年同期比で5%~10%のマイナスだった。現場技術者の確保が課題だ。（プラスチック）
- 生産の効率化により、業況が好転した。（ゴム製品）

[来期の業況について]

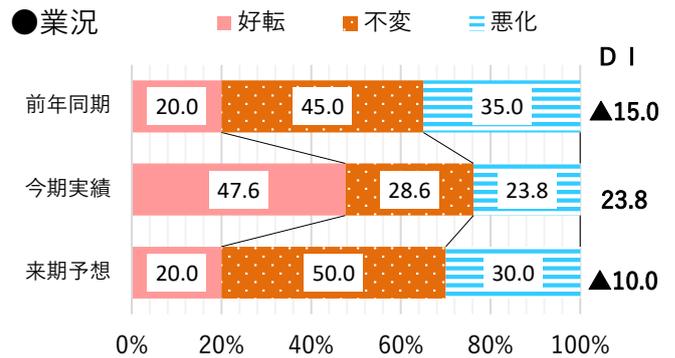
- 今期同様、工事の計画延期や中止に至るケースも考えられるため、不透明感が強い。（金属製品）
- 秋冬商品の価格改定の幅が大きいので、販売数量への影響の予測が難しい。また、円安やエネルギー価格の上昇、人材確保難、最低賃金の上昇などによる利益の下押し圧力の影響も予測できない。（食料品）
- 今期の設備投資により作業効率を高める。新商品の開発により、売上の増加も見込める。（食料品）
- 商品の値上げにより採算の好転を見込むが、出荷の遅れは年末に向けて深刻になる。（食料品）
- 人材が集まらなければ、事業の縮小も視野に入れなければならない可能性がある。（食料品）
- 新規事業による業績の好転を計画している。（食料品）
- 電気料金の上昇による採算の悪化を見込む。（食料品）
- 業務用商品の売上がさらに増加する見込みだ。（飲料）
- 新製品の発売により、売上の増加を期待する。（飲料）
- 例年通り販売重量の伸長を見込むが、製品価格の引き上げは難しいため、売上の増加は少ないと思う。仕入価格は原油価格の高騰と円安により1割程増加を見込む。原油は1バレル90ドルを超過しているが、さらなる上昇も予想される。（プラスチック）
- 新規受注もあるが、住宅事情により建材の売上の見通しが立たない。（プラスチック）
- 運賃等への価格転嫁が必要となる。（プラスチック）
- 引き続き生産効率化に取り組む。（ゴム製品）

卸 売 業

業況、売上、採算

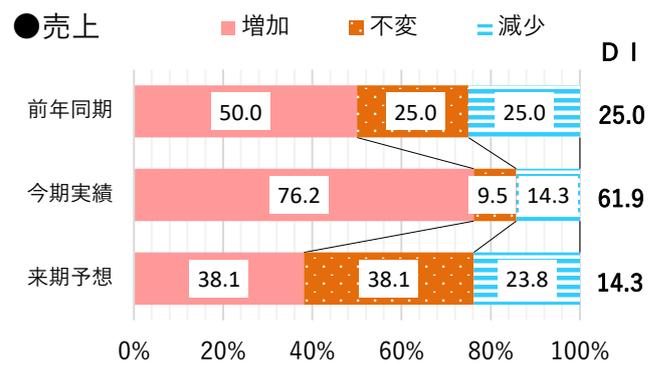
今期(2023.7~9)の業況判断DIは23.8で、前年同期(2022.7~9)と比べ38.8ポイントと大幅に上昇し、プラスに転じました。

来期(2023.10~12)は、業況が大幅に悪化し、マイナスに転じると予想しています。



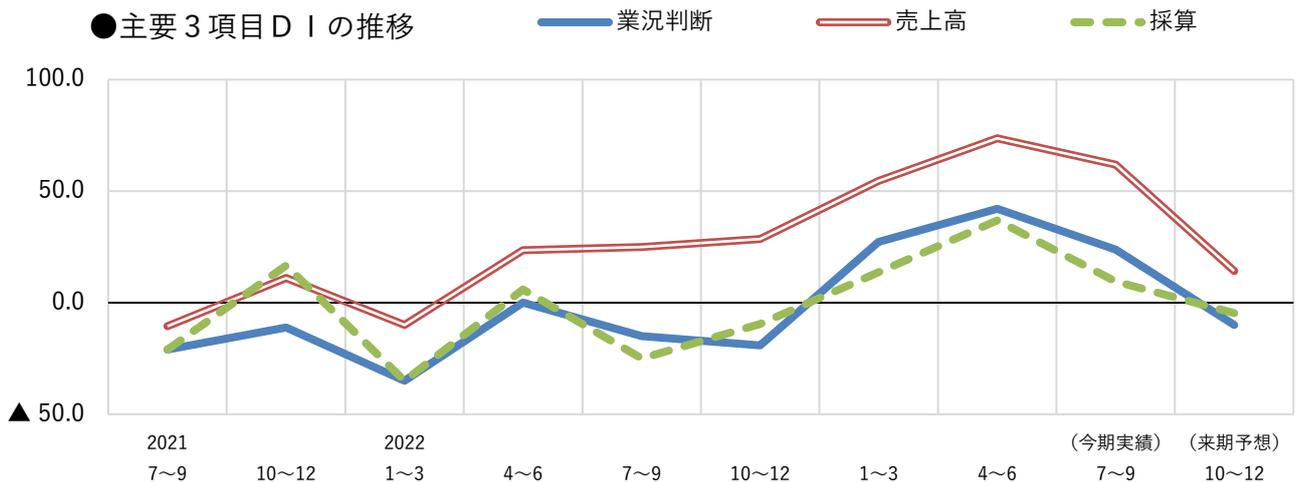
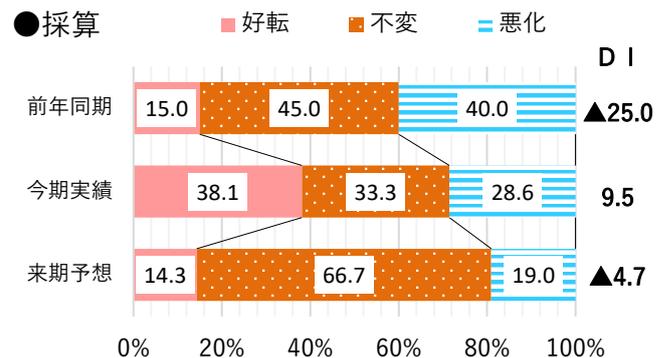
今期の売上DIは61.9で、前年同期と比べ36.9ポイントと大幅に上昇しました。

来期は、売上の増加傾向が大幅に弱まると予想しています。



今期の採算DIは9.5で、前年同期と比べ34.5ポイントと大幅に上昇し、プラスに転じました。

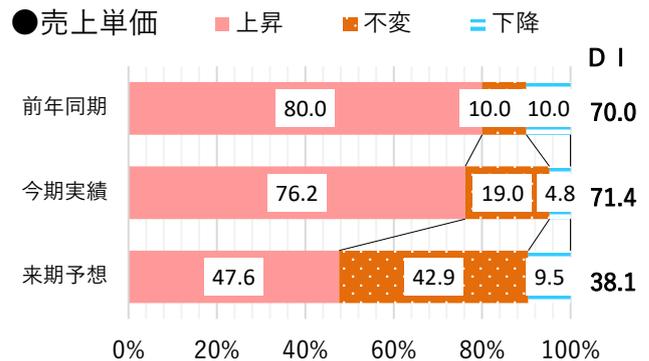
来期は、採算がマイナスに転じると予想しています。



売上単価、商品仕入単価

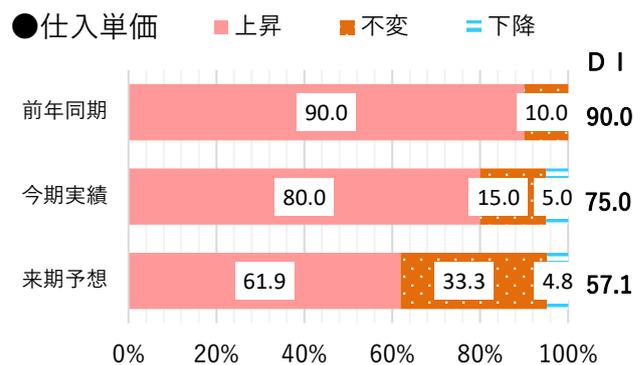
今期の売上単価DIは71.4で、前年同期と比べ1.4ポイント上昇しました。

来期は、売上単価の上昇傾向が大幅に弱まると予想しています。



今期の仕入単価DIは75.0で、前年同期と比べ15.0ポイント低下しました。

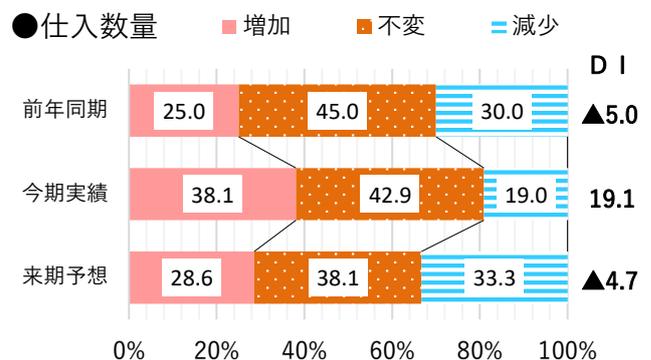
来期は、仕入単価の上昇傾向が弱まると予想しています。



商品仕入数量、商品在庫数量

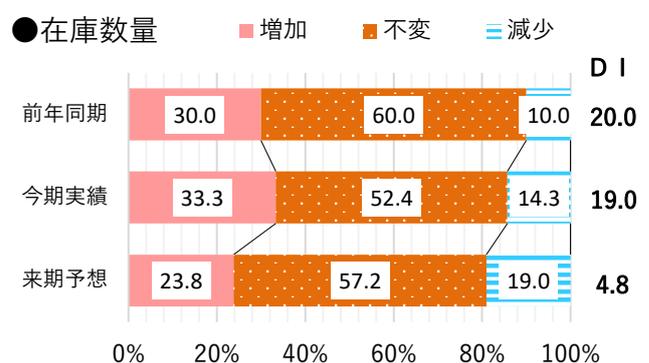
今期の仕入数量DIは19.1で、前年同期と比べ24.1ポイント上昇し、プラスに転じました。

来期は、仕入数量がマイナスに転じると予想しています。



今期の在庫数量DIは19.0で、前年同期と比べ1.0ポイント低下しました。

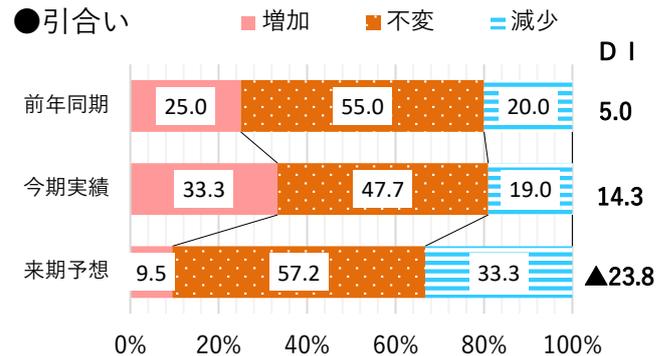
来期は、在庫数量の増加傾向が弱まると予想しています。



引合い

今期の引合いDIは14.3で、前年同期と比べ9.3ポイント上昇しました。

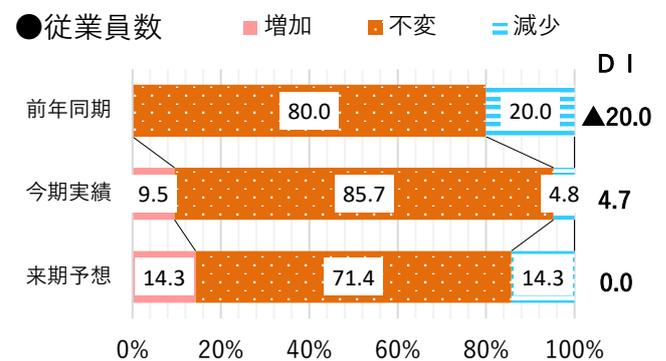
来期は、引合いが大幅に減少し、マイナスに転じると予想しています。



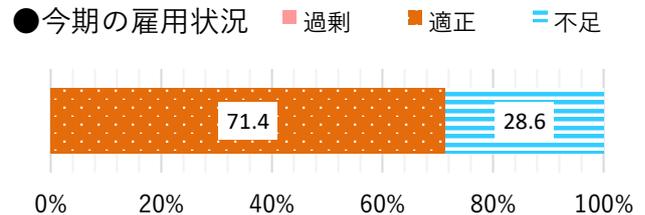
従業員、今期の雇用状況

今期の従業員DIは4.7で、前年同期と比べ24.7ポイント上昇し、プラスに転じました。

来期は、従業員数の増加傾向が弱まると予想しています。



今期の雇用状況について、自社の従業員数が過剰であると回答した企業はなく、適正であると回答した企業の割合は71.4%、不足していると回答した企業の割合は28.6%でした。



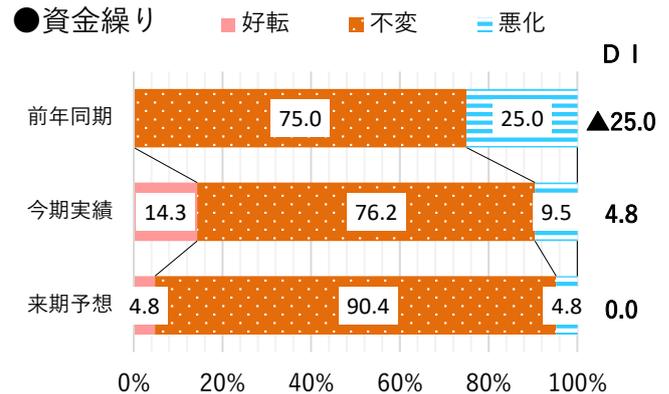
従業員数と雇用状況の相関関係について、最も多かったのは「従業員数は前年同期比で変わらず、充足している」という回答で、卸売業全体の61.9%を占めており、不足と回答した企業は3割弱でした。

今期従業員数	今期の雇用状況	回答数
増加した	過剰	0
	適正	1
	不足	1
不変だった	過剰	0
	適正	13
	不足	5
減少した	過剰	0
	適正	1
	不足	0

資金繰り、設備投資

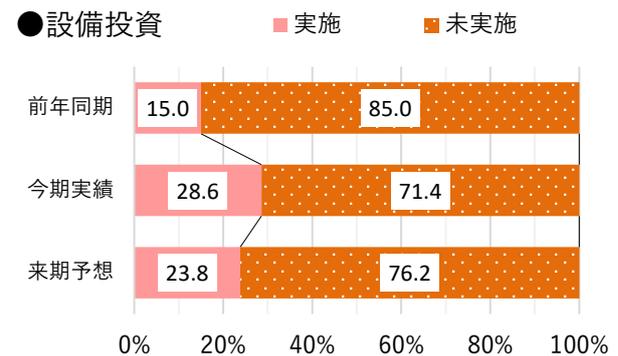
今期の資金繰りDIは4.8で、前年同期と比べ29.8ポイント上昇し、プラスに転じました。

来期は、資金繰りの悪化傾向が弱まると予想しています。



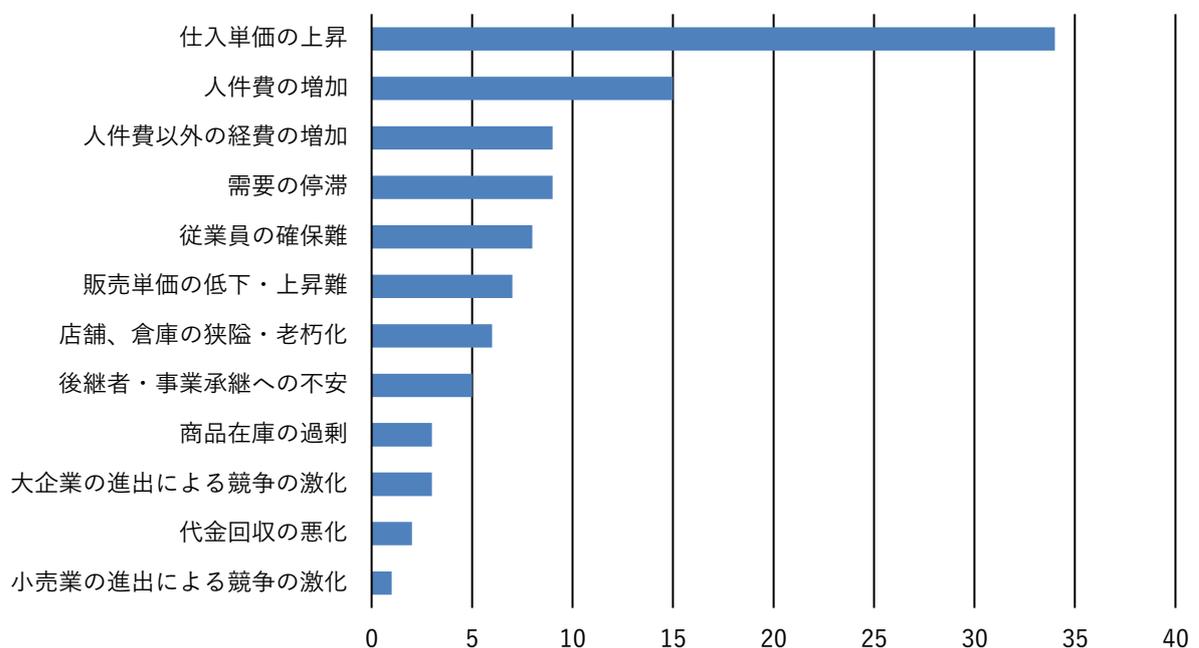
設備投資を実施した企業の割合は28.6%で、前年同期と比べ13.6%上昇しました。投資内容は1位が「車両運搬具」、2位が「OA機器」でした。

来期に設備投資を計画している企業の割合は23.8%で、減少を予想しています。



経営上の問題点

今期直面している経営上の課題は1位が「仕入単価の上昇」、2位が「人件費の増加」、3位が「人件費以外の経費の増加」の順です。



企業の声

[今期の業況について]

- 売上を大きく落とすことなく営業できた。従業員の給料を引き上げ、社員のモチベーションを高められるよう努めた。（自動車部品）
- コロナ禍が終息し、好天が続いた影響により売上額が増加した。（食料・飲料）
- 昨年比でやや好転した。（食料・飲料）
- 石油製品の仕入価格が上昇し、利益を確保できない。従業員の昇給により利益が減少した。（石油）
- 北海道新幹線の照明関係の工事が後志地区でも本格的に動き出し、売上が急増している。（建築材料）
- 原材料価格の高止まりと販売量の減少により苦戦している。（鉱物・金属材料）
- 売上が増加した。（事務用品）

[来期の業況について]

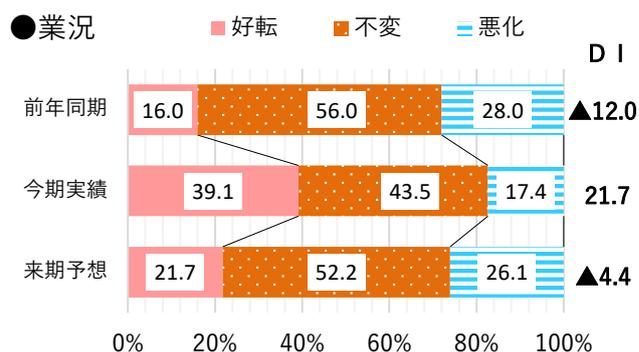
- 冬期の仕事を順調にこなし、増収につなげたい。（自動車部品）
- 売上が減少し、コストが増加すると思われる。（食料・飲料）
- 今期同様に売上の増加を見込む。（食料・飲料）
- 悪化を予想する。（食料・飲料）
- 石油製品の価格安定を望む。（石油）
- 今期同様売上の増加を見込むが、資材、人材、車両不足が深刻で対応に苦慮している。（建築材料）
- 引き続き原材料価格が高止まりし、変動は無いと思われるので販売量は減少する。（鉱物・金属材料）
- 今期に引き続き売上の増加を見込む。（事務用品）

小 売 業

業況、売上、採算

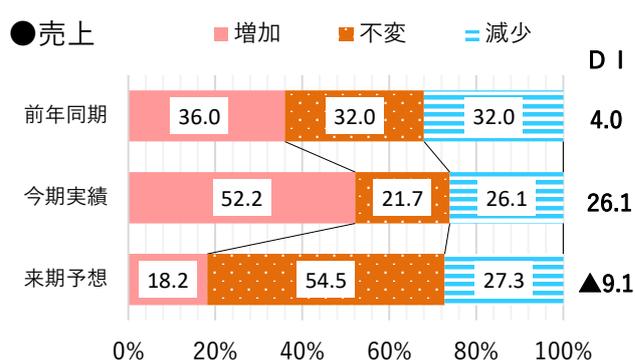
今期(2023.7~9)の業況判断DIは21.7で、前年同期(2022.7~9)と比べ33.7ポイントと大幅に上昇し、プラスに転じました。

来期(2023.10~12)は、業況がマイナスに転じると予想しています。



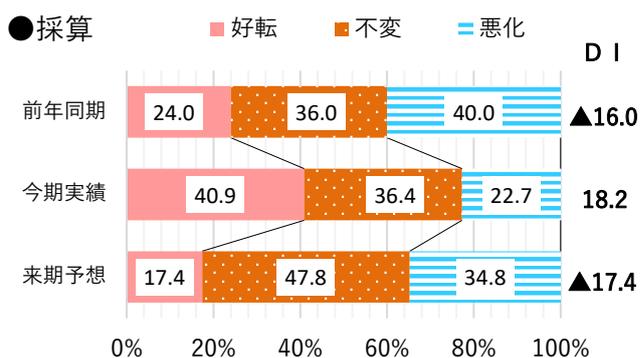
今期の売上高DIは26.1で、前年同期と比べ22.1ポイント上昇しました。

来期は、売上が大幅に減少し、マイナスに転じると予想しています。

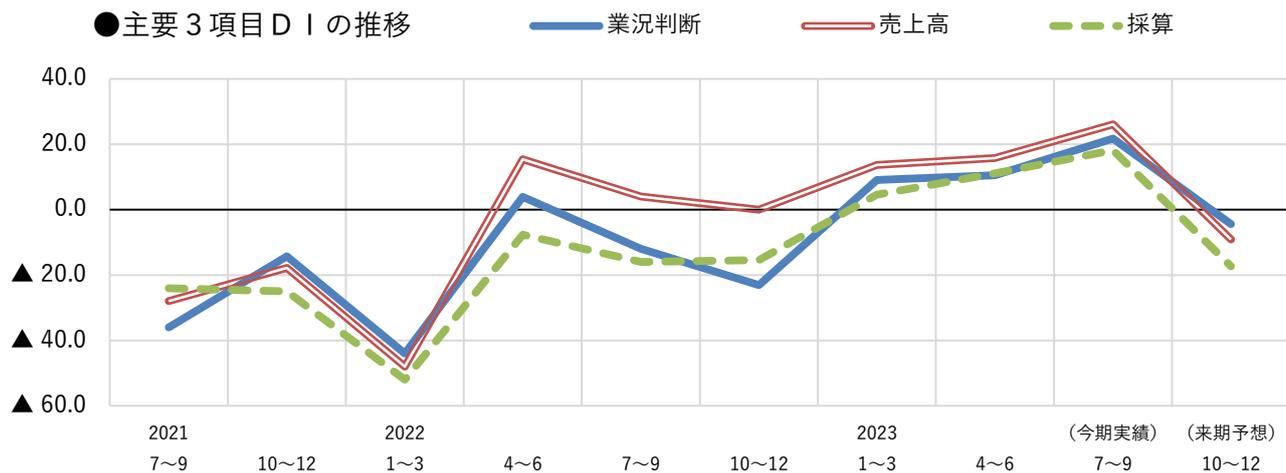


今期の採算DIは18.2で、前年同期と比べ34.2ポイントと大幅に上昇し、プラスに転じました。

来期は、採算が大幅に悪化し、マイナスに転じると予想しています。



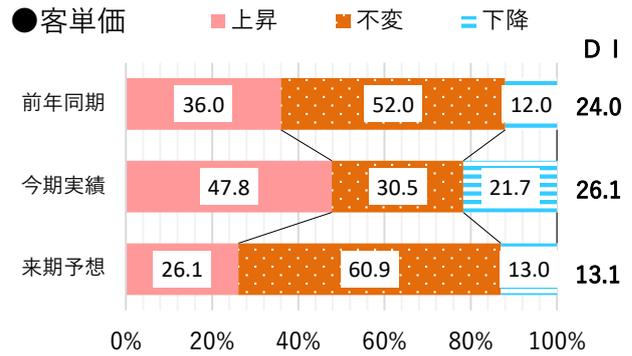
●主要3項目DIの推移



客単価、客数

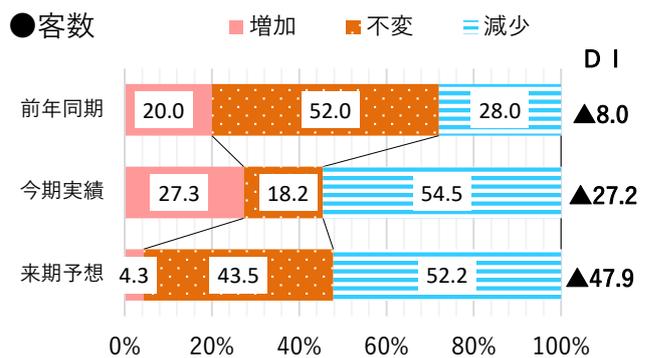
今期の客単価DIは26.1で、前年同期と比べ2.1ポイント上昇しました。

来期は、客単価の上昇傾向が弱まると予想しています。



今期の客数DIは▲27.2で、前年同期と比べ19.2ポイント低下しました。

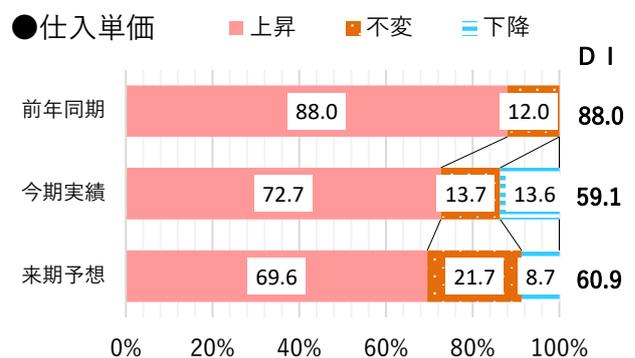
来期は、客数の減少傾向が強まると予想しています。



商品仕入単価、商品仕入額、商品在庫数

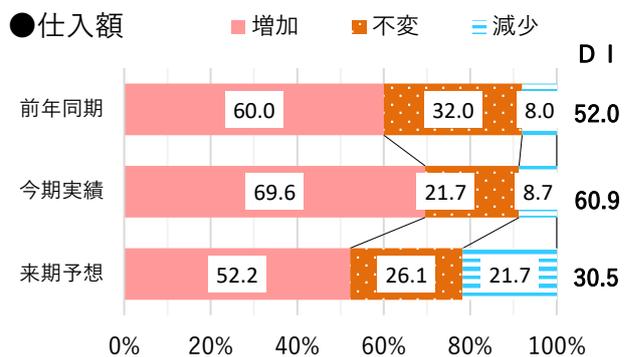
今期の仕入単価DIは59.1で、前年同期と比べ28.9ポイント低下しました。

来期は、仕入単価の上昇傾向が続くと予想しています。



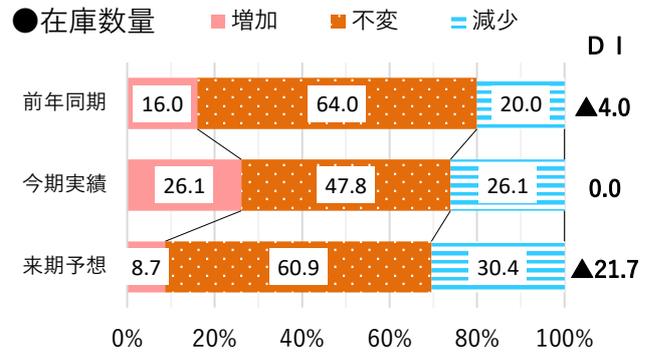
今期の仕入額DIは60.9で、前年同期と比べ8.9ポイント上昇しました。

来期は、仕入額の増加傾向が大幅に弱まると予想しています。



今期の在庫数量DIは0.0で、前年同期と比べ4.0ポイントと上昇しました。

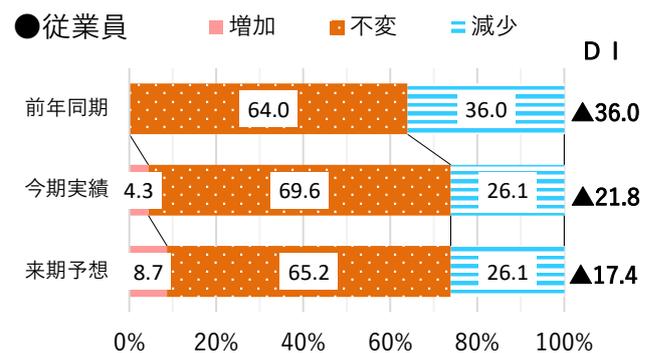
来期は、在庫数量がマイナスに転じると予想しています。



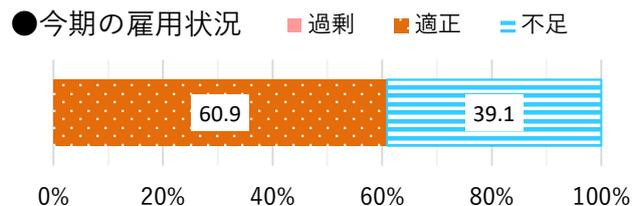
従業員、今期の雇用状況

今期の従業員DIは▲21.8で、前年同期と比べ14.2ポイント上昇しました。

来期は、従業員数の減少傾向が弱まると予想しています。



今期の雇用状況について、自社の従業員数が過剰であると回答した企業はなく、適正であると回答した企業の割合は60.9%、不足していると回答した企業の割合は39.1%でした。



従業員数と雇用状況の相関関係について、最も多かったのは「従業員数は前年同期比で変わらず、充足している」という回答で、52.1%を占めています。

小売業全体では、約4割の企業で従業員が不足しています。

今期従業員数	今期の雇用状況	回答数
増加した	過剰	0
	適正	0
	不足	1
不変だった	過剰	0
	適正	12
	不足	4
減少した	過剰	0
	適正	2
	不足	4

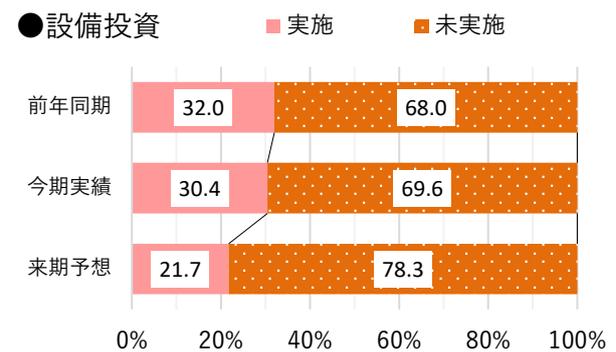
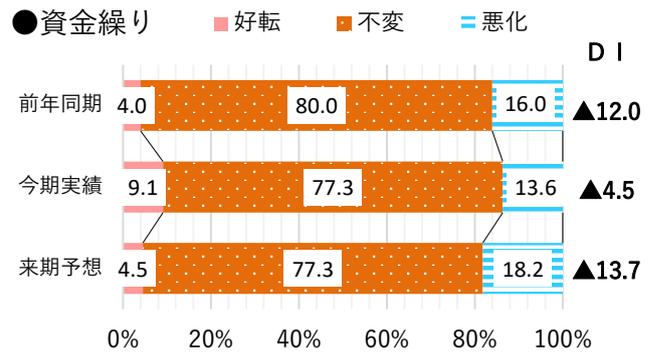
資金繰り、設備投資

今期の資金繰りDIは▲4.5で、前年同期と比べ7.5ポイント上昇しました。

来期は、資金繰りの悪化傾向が強まると予想しています。

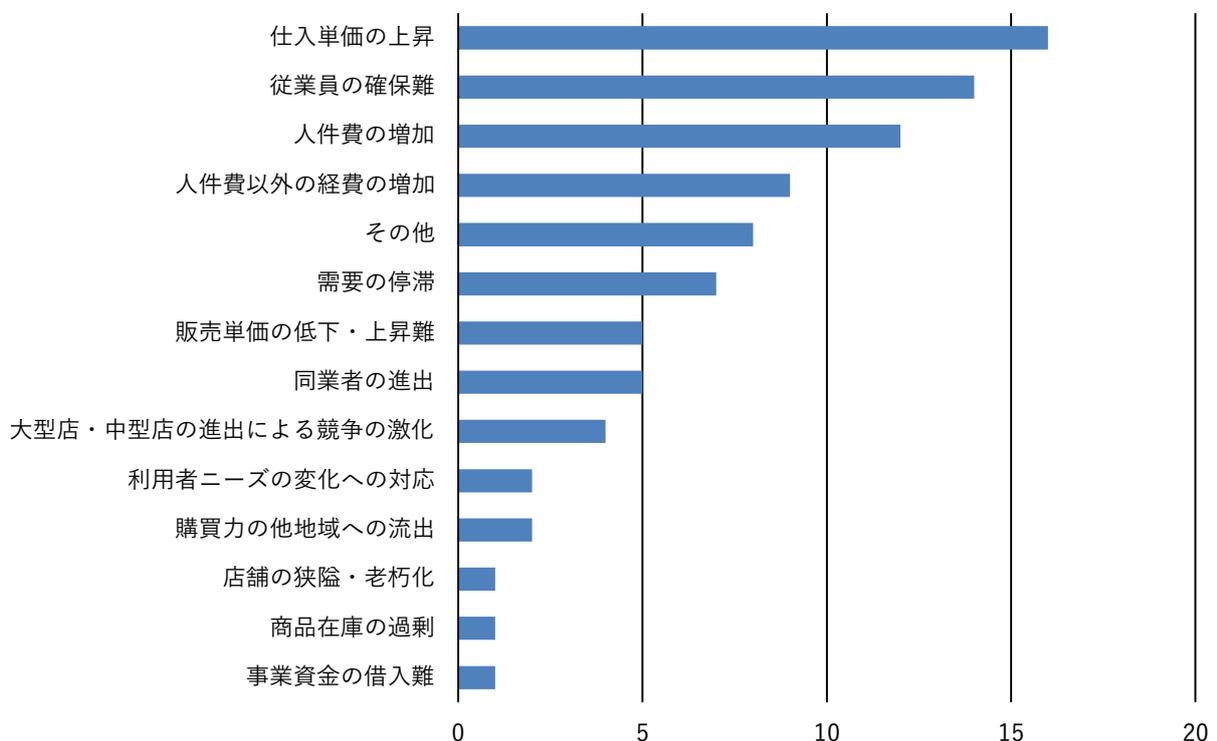
設備投資を実施した企業の割合は30.4%で、前年同期と比べ1.6%低下しました。投資内容は1位が「付帯施設」、2位が「販売設備」の順です。

来期に設備投資を計画している企業の割合は21.7%で、減少を予想しています。



経営上の問題点

今期直面している経営上の課題は、1位が「仕入単価の上昇」、2位が「従業員の確保難」、3位が「人件費の増加」の順です。



企業の声

[今期の業況について]

- 売上額はホテル、飲食店向けの納品、店舗販売ともに伸長した。これはコロナウイルスが五類になった影響が大きいと思う。仕入額は酒類が上昇傾向にある。(食料品小売)
- お盆、彼岸があり客数、客単価ともに上向いたが、原材料費や他の経費が上昇しており、利益の増加には至っていないと思われる。(菓子製造小売)
- 人材の確保難が売上の減少につながった。(食肉)
- 食材の値上げにより、身の回り品の購入が減るまたは低価格品への移行が増えている。自社製品で最も売れる価格帯の商品を備蓄している。現在、自己資金内での経営ができています。(衣服・身の回り品)
- 人材確保に苦労している。来年度に向け、ベトナムの技能実習生の採用準備をしている。(自動車)
- 新車の納期が短くなり、中古車の価格が落ち着いてきた。(自動車)
- 突発的で急激な気温上昇により季節商品の需要が増え、業績は好転したが、すぐに手に入る手ごろな価格帯の商品が売上の中心だったため、客単価は上がりきらなかった。(家電量販店)
- 売上の増加により収益が増加した。人員は不足傾向のため給与を調整している。(大型店)
- 需要が高まるお盆商戦が好調で、客単価が上昇し、売上を確保できた。(大型店)
- 売上と業況が安定しない。今期売上は前年同期の実績を割り込んだ。(コンビニ)
- 入店客数と家具の売上が減少した。小樽市内の新築着工件数の減少も影響している。(ホームセンター)
- 原油高、円安により仕入価格が上昇した。それに伴い販売価格を引き上げた。(石油)

[来期の業況について]

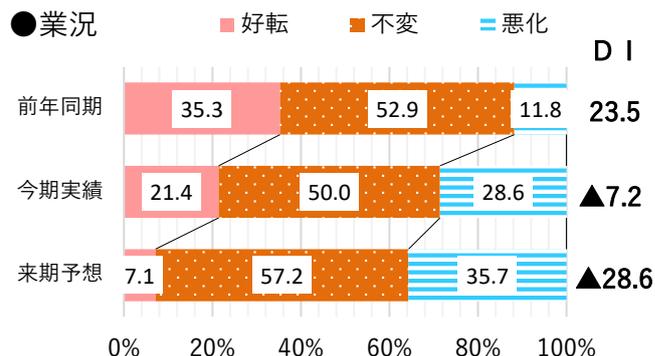
- 米穀は秋の収穫が全国的に不作なため、値上げとなり、販売価格への転嫁が求められる。酒類は今後も値上げ傾向が続くと見られる。(食料品小売)
- 最低賃金の値上げによる経費の上昇、原材料価格の上昇を見込む。(菓子製造小売)
- 人材の確保難、最低賃金の上昇により業況は伸び悩むと思われる。(食肉小売)
- 地元中小企業の倒産ラッシュを予想する。在庫商品の評価や、消費者が求める価格を見誤らないよう努める。銀行借入れをせず、自己資金での経営を続けたい。(衣服・身の回り品)
- ガソリン価格の高騰により、ハイブリッド車や軽自動車への買い替えが増える。(自動車)
- 閑散期のため、売上が減少する。(自動車)
- 今後のことも考え、業績は高水準を維持したい。客単価の引き上げが課題だ。(家電量販店)
- 旬の食材が不足しており、10～11月は厳しい状況が見込まれる。年末商戦に期待する。(大型店)
- 今期と同じく、売上の増加傾向と人材不足が続くと予測している。(大型店)
- 不安定な状況が続くと思われる。(コンビニ)
- 人口減少地域のため、家具の売上には期待できない。(ホームセンター)
- 原油安と円高に移行する目処が立たないため、変わらないと思われる。(石油)

運輸・倉庫業

業況、売上、採算

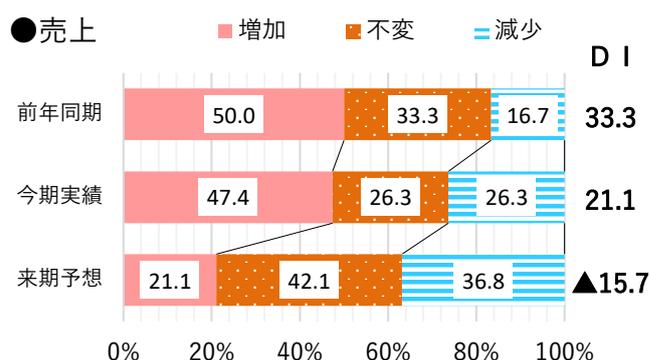
今期（2023.7～9）の業況判断DIは▲7.2で、前年同期（2022.7～9）と比べ30.7ポイントと大幅に低下し、マイナスに転じました。

来期（2023.10～12）は、業況の悪化傾向が強まると予想しています。



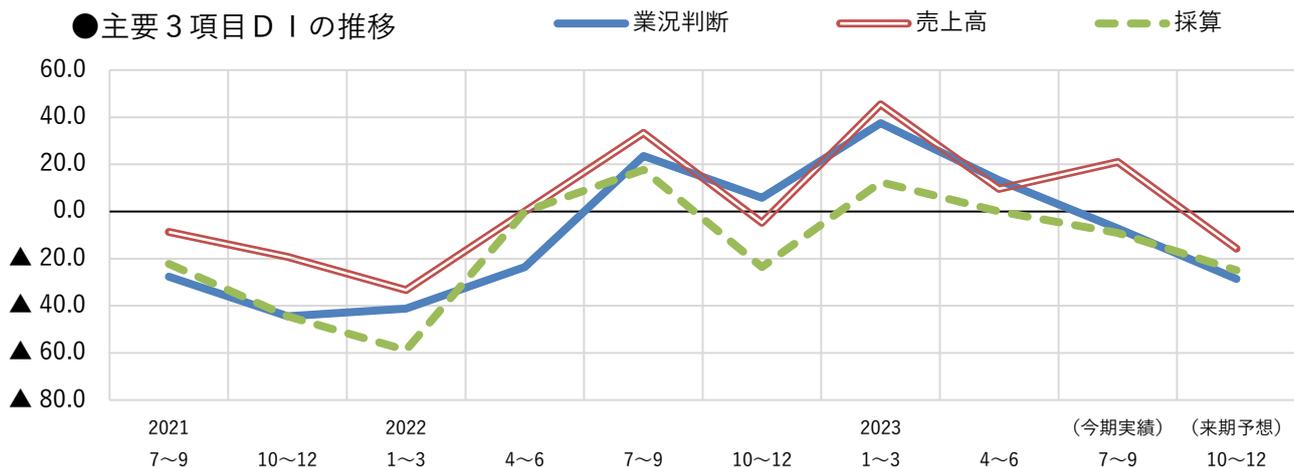
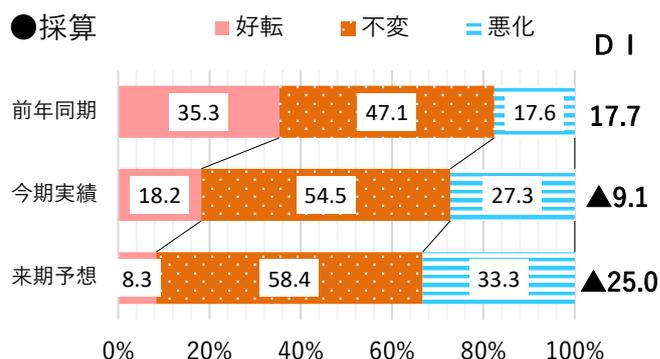
今期の売上高DIは21.1で、前年同期と比べ12.2ポイント低下しました。

来期は、売上が大幅に減少し、マイナスに転じると予想しています。



今期の採算DIは▲9.1で、前年同期と比べ26.8ポイント低下し、マイナスに転じました。

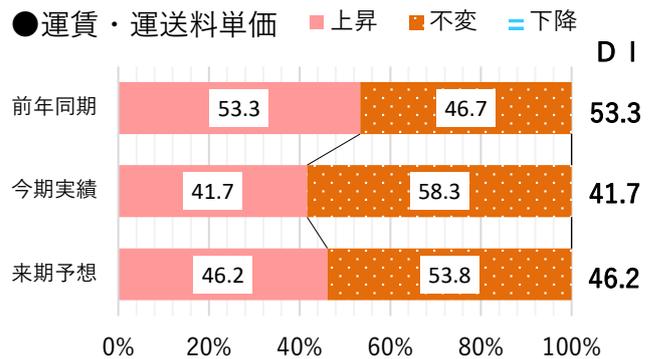
来期は、採算の悪化傾向が強まると予想しています。



運賃・運送料単価、保管料単価

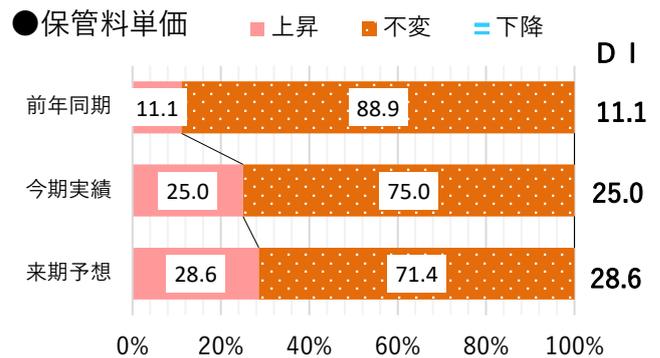
今期の運賃・運送料単価DIは41.7で、前年同期と比べ11.6ポイント低下しました。

来期は、運賃・運送料単価の上昇傾向が強まると予想しています。



今期の保管料単価DIは25.0で、前年同期と比べ13.9ポイント上昇しました。

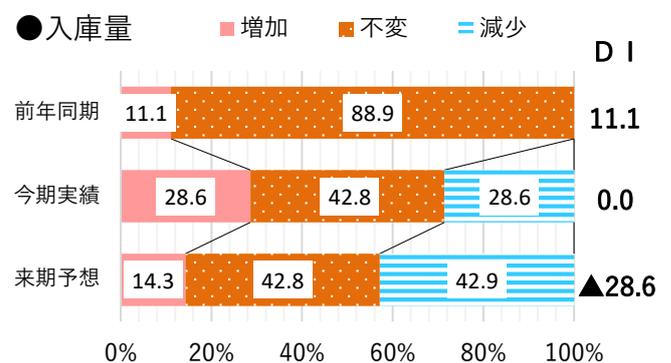
来期は、保管料単価の上昇傾向が強まると予想しています。



入庫量、出庫量、保管残高

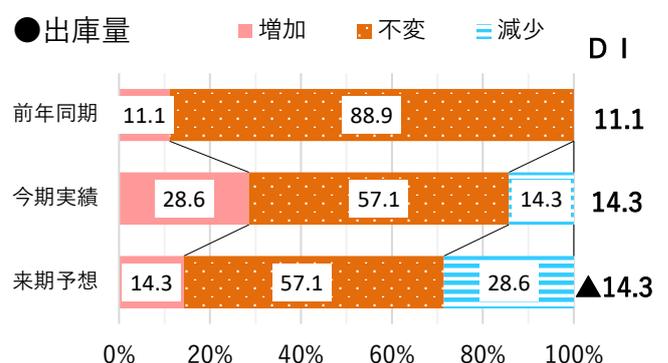
今期の入庫量DIは0.0で、前年同期と比べ11.1ポイント低下しました。

来期は、入庫量がマイナスに転じると予想しています。



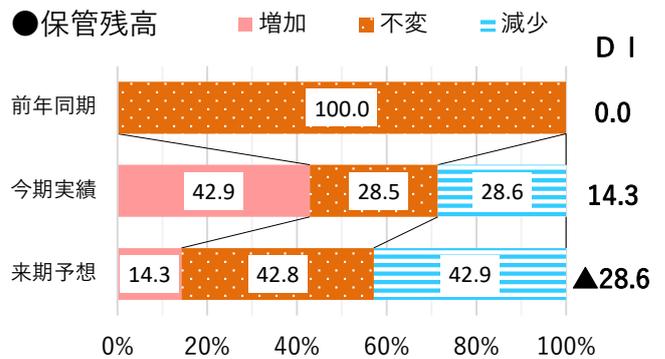
今期の出庫量DIは14.3で、前年同期と比べ3.2ポイント上昇しました。

来期は、出庫量がマイナスに転じると予想しています。



今期の保管残高DIは14.3で、前年同期と比べ14.3ポイント上昇しました。

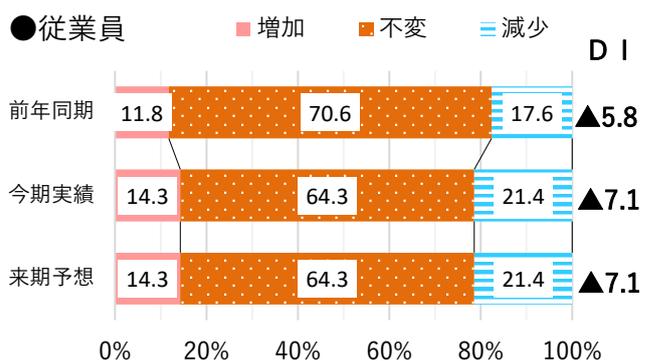
来期は、保管残高が大幅に減少し、マイナスに転じると予想しています。



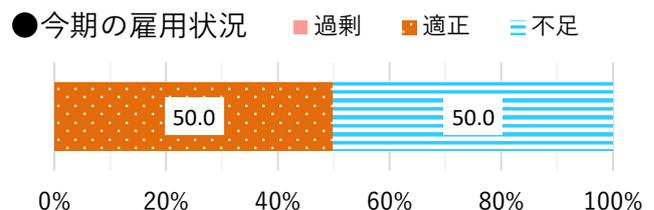
従業員、今期の雇用状況

今期の従業員DIは▲7.1で、前年同期と比べ1.3ポイント低下しました。

来期は、従業員数の横ばいを予想しています。



今期の雇用状況について、自社の従業員数が過剰であると回答した企業はなく、適正であると回答した企業の割合は50.0%、不足していると回答した企業の割合は50.0%でした。



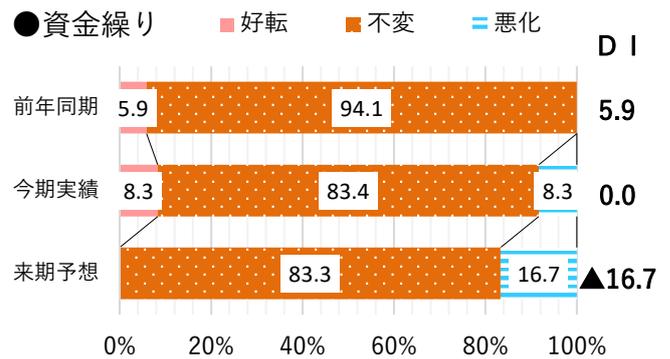
従業員数と雇用状況の相関関係について、最も多かったのは「従業員数は前年同期比で変わらず、充足している」という回答で、半数の企業は従業員不足と回答しています。

今期従業員数	今期の雇用状況	回答数
増加した	過剰	0
	適正	0
	不足	2
不変だった	過剰	0
	適正	6
	不足	3
減少した	過剰	0
	適正	1
	不足	2

資金繰り、設備投資

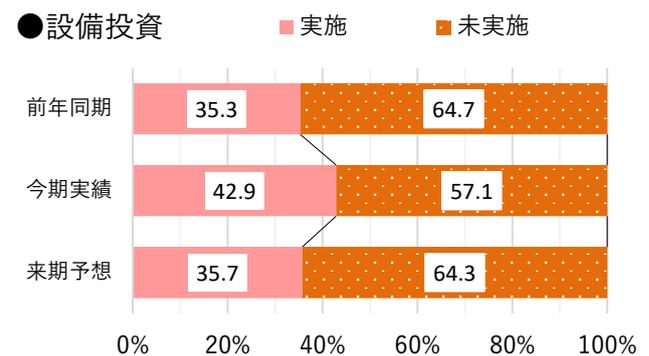
今期の資金繰りDIは0.0で、前年同期と比べ5.9ポイント低下しました。

来期は、資金繰りがマイナスに転じると予想しています。



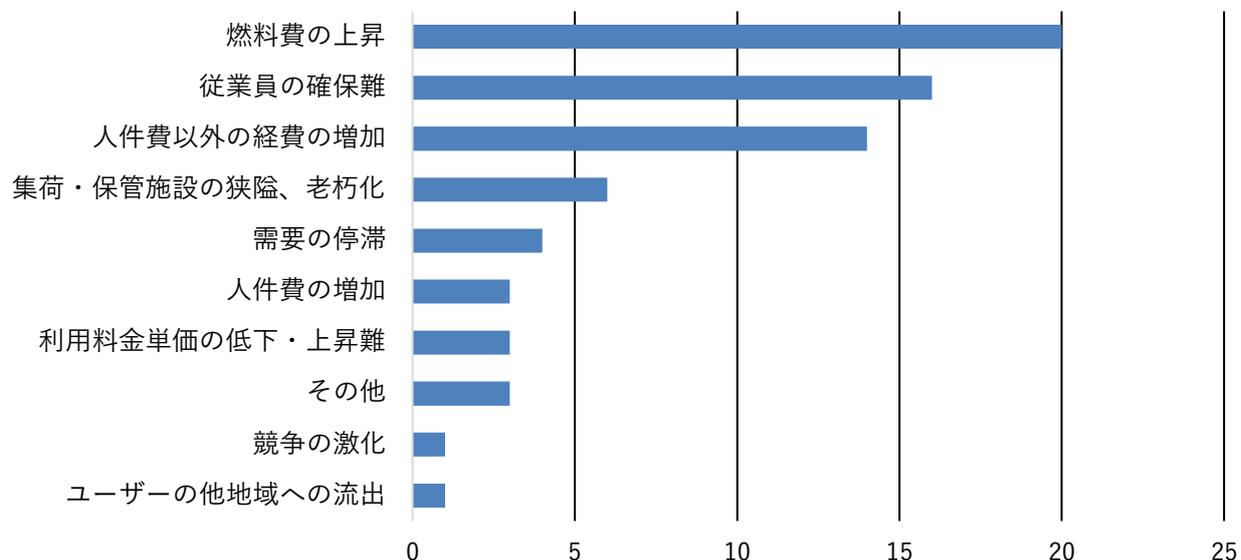
設備投資を実施した企業の割合は42.9%で、前年同期と比べ7.6%上昇しました。投資内容は、1位が「輸送機材」、2位が「土地」、「店舗」、「集荷・保管施設」、「付帯施設」、「O A 機器」「その他」(同位)の順です。

来期に設備投資を計画している企業の割合は35.7%で、減少を予想しています。



経営上の問題点

今期直面した経営上の問題点は、1位が「燃料費の上昇」、2位が「従業員の確保難」、3位が「人件費以外の経費の増加」の順です。



企業の声

[今期の業況について]

- 人材確保は概ね順調だが、人件費や燃料費、車両購入の減価償却費の増加といった要因で今期の値上げは難しかった。前期に値上げした分により、売上は増加した。(道路貨物運送)
- 秋を迎え農産品の荷動きが活発になり、売上は好転した。運賃は改定していない。経費が増加している。(道路貨物運送)
- 燃料や車両、タイヤの修理代金の上昇により、業況は厳しい。(道路貨物運送)
- 農産物の出荷時期が昨年と比べ若干早まったため、輸送量が増加した。(道路貨物運送)
- 社員不足により時間外労働が増加している。最低賃金や燃料費をはじめとする経費の上昇により利益が見込めない。(道路旅客運送)
- 人材確保により増収となった。(道路旅客運送)
- 保管料単価が上昇し、収入が増加した。(倉庫)
- 入庫量が減少した。(倉庫)
- 対ロシア輸出規制に伴い取扱貨物量が減少し、売上が落ち込んだ。(港湾運送)
- 燃料油の高騰で経費が上昇した。輸送船舶の予定外の検査があり、輸送能力が減少した。旅客部門では、新型コロナウイルスによる行動制限がなくなったことによる反動増と、インターハイが北海道で開催されたことで特需があった。(水運)

[来期の業況について]

- 売上は順調に推移すると見ているが、燃料油脂、電気代金の上昇傾向が終息せず、差益の確保に苦労すると思われる。(道路貨物運送)
- 運賃改定を取引先に依頼している。2024年問題に対応するため、人件費が増加する。(道路貨物運送)
- 前年並みの状況を見込む。(道路貨物運送)
- 社員不足、経費の増加傾向は続くと思われる。(道路旅客運送)
- 引き続き入庫量の減少が予想される。(倉庫)
- 対ロシア貿易の先行き不透明感に加え、市内の飼料工場閉鎖に伴う穀物類の輸入減少が見込まれるため、売上の減少が続くと思われる。(港湾運送)
- 旅客は引き続き増加傾向が続くと思うが、貨物輸送は燃料価格の上昇と、輸送能力の低下により売上の減少が見込まれる。(水運)

観光業

業況、売上、採算

今期（2023.7～9）の業況判断DIは58.6で、前年同期(2022.7～9)と比べ6.1ポイント低下しました。

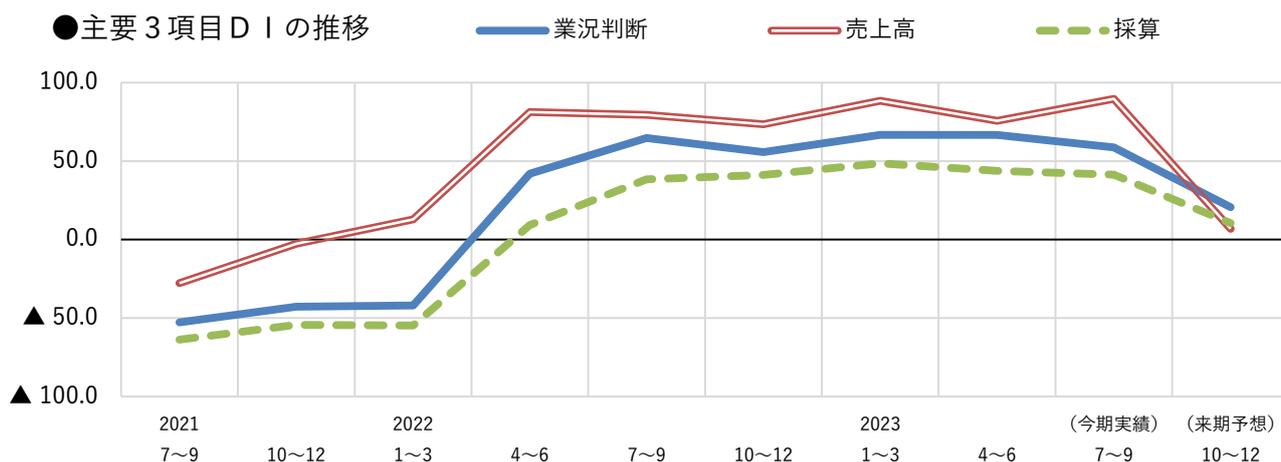
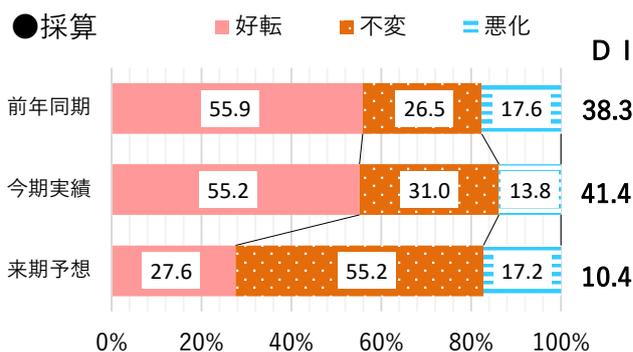
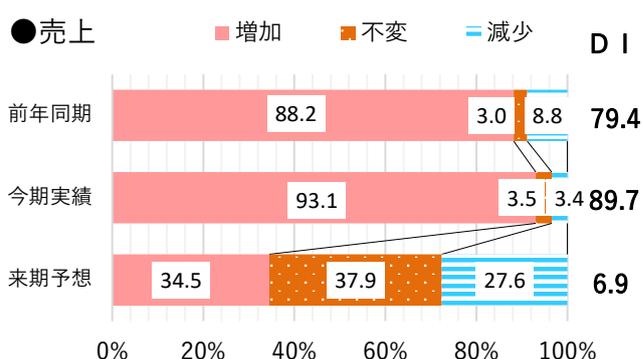
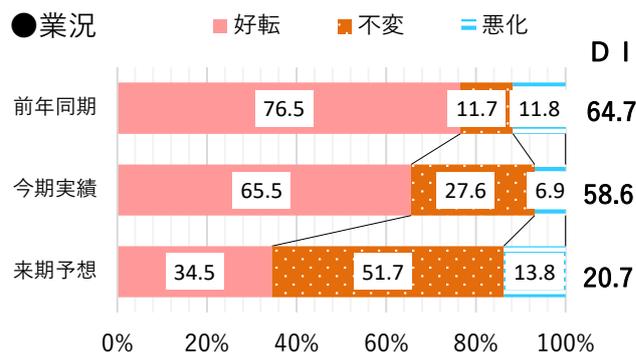
来期（2023.10～12）は、業況の好転傾向が大幅に弱まると予想しています。

今期の売上DIは89.7で、前年同期と比べ10.3ポイント上昇しました。

来期は、売上の増加傾向が大幅に弱まると予想しています。

今期の採算DIは41.4で、前年同期と比べ3.1ポイント上昇しました。

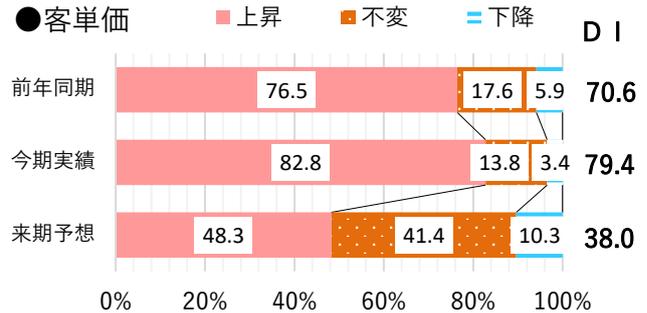
来期は、採算の好転傾向が大幅に弱まると予想しています。



客単価、利用客数、日本人客数、外国人客数

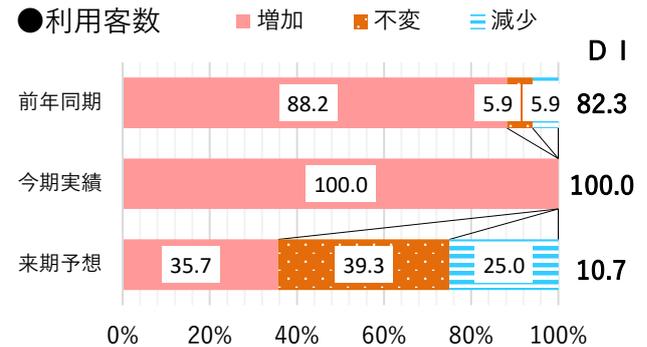
今期の客単価DIは79.4で、前年同期と比べ8.8ポイント上昇しました。

来期は、客単価の上昇傾向が大幅に弱まると予想しています。



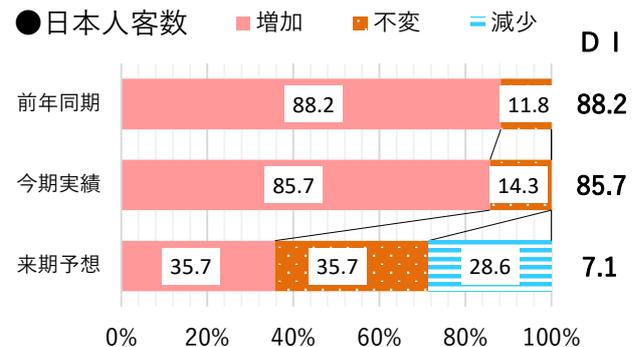
今期の利用客数DIは100.0で、前年同期と比べ17.7ポイント上昇しました。

来期は、利用客数の増加傾向が大幅に弱まると予想しています。



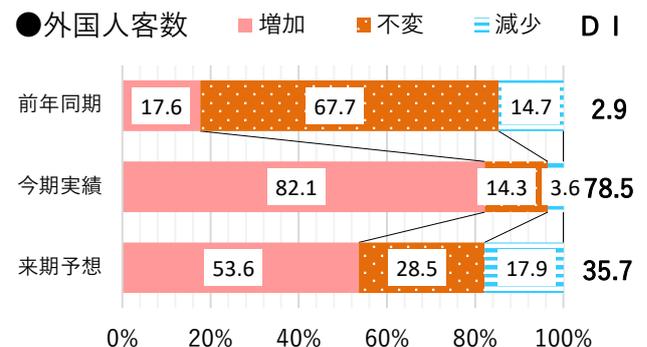
今期の日本人客数DIは85.7で、前年同期と比べ2.5ポイント低下しました。

来期は、日本人客数の増加傾向が大幅に弱まると予想しています。



今期の外国人客数DIは78.5で、前年同期と比べ75.6ポイントと大幅に上昇しました。

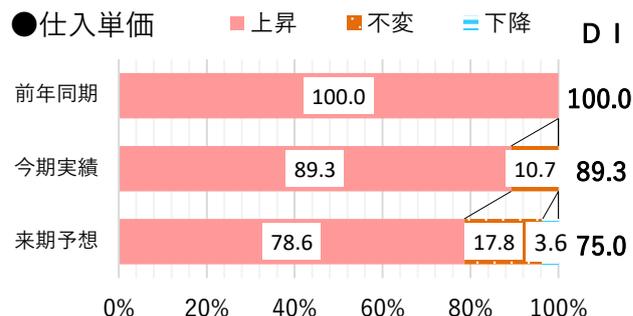
来期は、外国人客数の増加傾向が大幅に弱まると予想しています。



仕入単価

今期の仕入単価DIは89.3で、前年同期と比べ10.7ポイント低下しました。

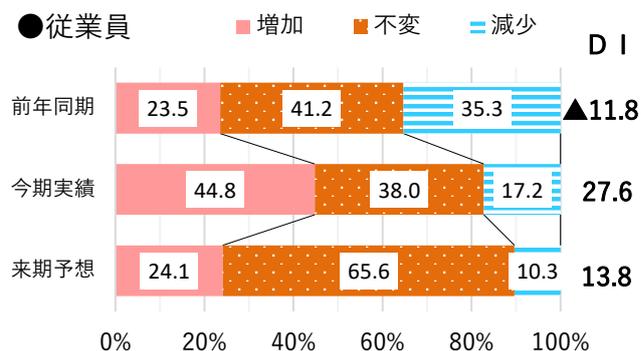
来期は、仕入単価の上昇傾向が弱まると予想しています。



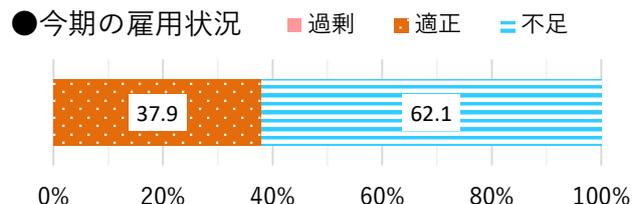
従業員、今期の雇用状況

今期の従業員数DIは27.6で、前年同期と比べ39.4ポイントと大幅に上昇しプラスに転じました。

来期は、従業員数の増加傾向が弱まると予想しています。



今期の雇用状況について、自社の従業員数が過剰であると回答した企業はなく、適正であると回答した企業の割合は37.9%、不足していると回答した企業の割合は62.1%でした。



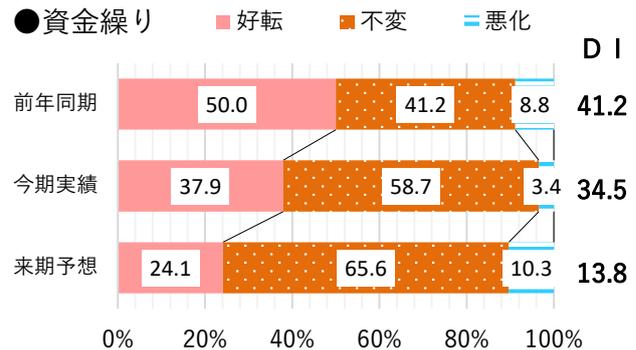
従業員数と雇用状況の相関関係について、最も多かったのは「従業員数は前年同期比で増加し、不足している」という回答で、31.0%を占めました。回答全体では6割強が従業員不足と回答しています。

今期従業員数	今期の雇用状況	回答数
増加した	過剰	0
	適正	4
	不足	9
不変だった	過剰	0
	適正	7
	不足	4
減少した	過剰	0
	適正	0
	不足	5

資金繰り、設備投資

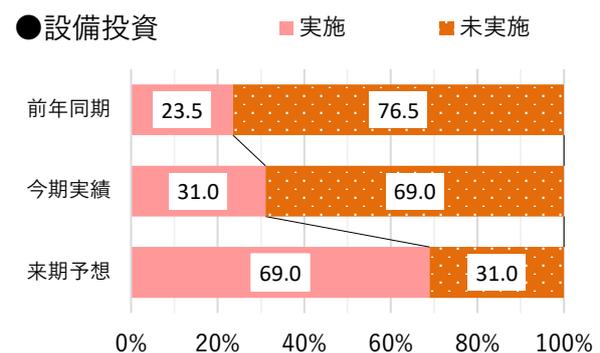
今期の資金繰りDIは34.5で、前年同期と比べ6.7ポイント低下しました。

来期は、資金繰りの好転傾向が弱まると予想しています。



設備投資を実施した企業の割合は31.0%で、前年同期と比べて7.5%増加しました。投資内容は、1位が「サービス設備」、
「付帯施設」(同位)、2位が「土地」、
「車両運搬具」、「O A 機器」(同位)の順です。

来期に設備投資を計画している企業の割合は69.0%で、大幅な増加を予想しています。

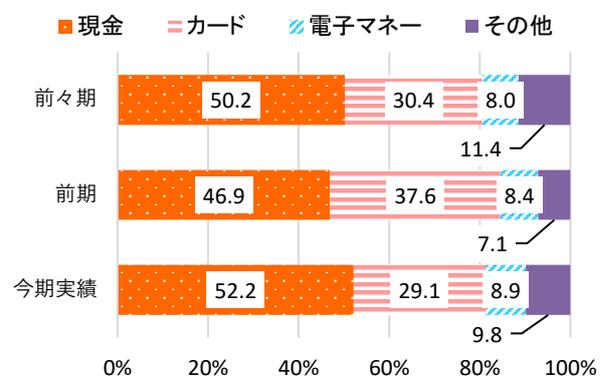


今期利用客の決済方法

今期利用客の決済方法の割合は、1位が現金で52.2%、2位がカードで29.1%、3位が電子マネーで8.9%、4位がその他で9.8%となりました。

その他として挙げられた具体的な決済方法は、銀行振り込み、掛け売り、クーポン券、ギフトカード、小切手、QRコードです。

●今期利用客の決済方法(%)

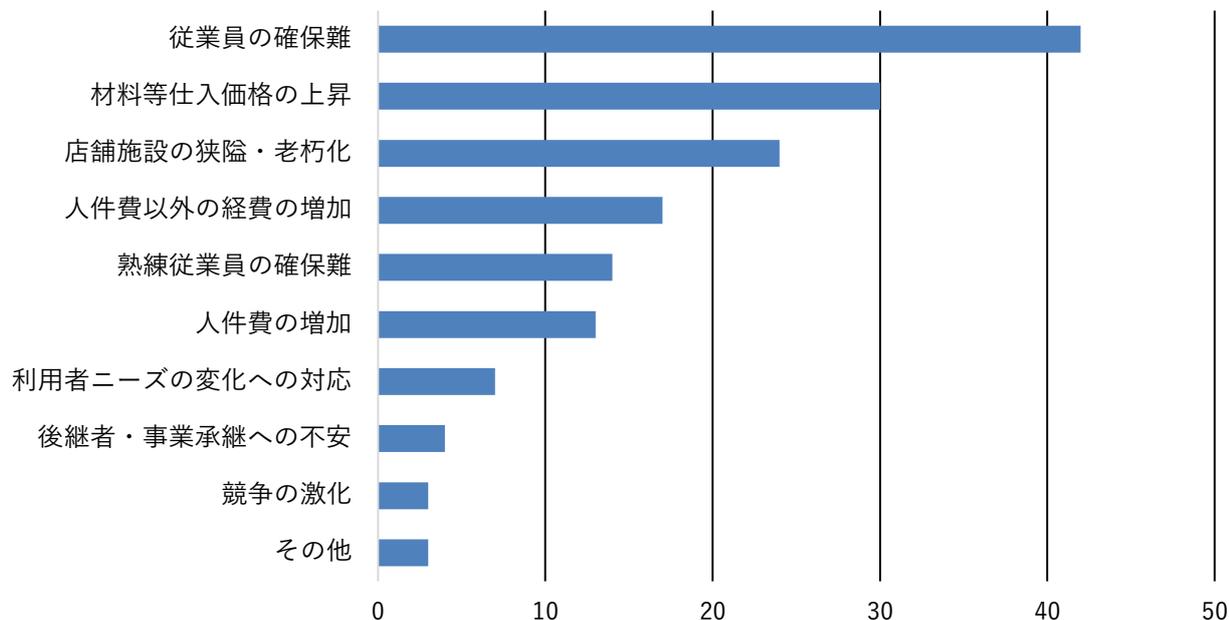


客室稼働率

今期調査で回答があった、宿泊業の平均客室稼働率は79.4%でした。

経営上の問題点

今期直面している経営上の問題点は、1位が「従業員の確保難」、2位が「材料等仕入価格の上昇」、3位が「店舗施設の狭隘・老朽化」の順です。



企業の声

[今期の業況について]

- インバウンド需要の回復が大きく、売上は大幅に好転した。物価高騰により仕入価格等経費が増加した。派遣社員を採用し人材不足を補っている。最低賃金改定に合わせ、求人の時給を引き上げる。(ホテル)
- 本格的にコロナ禍が明け、需要が増加した。仕入価格は高騰している。前述2点に伴い販売価格を引き上げた。人員は常に不足している。(ホテル)
- 国内旅行需要は回復したが、離職者の増加、人員減によりニーズに応えられていない。(ホテル)
- インバウンドの回復と旅行支援により、売上が増加した。(ホテル)
- 原価と人件費が大幅に上昇しており、大変な状況だ。(ホテル)
- 今期は順調だが、来期は見通せない。(ホテル)
- 利用客数は増えたが、仕入価格の増加と人材確保が課題だ。(コテージ・ペンション)
- 利用客は増加したが、暑さのため、利益率の低い一部のメニューに注文が偏った。また、仕入額の増加分を販売価格に転嫁できなかった。(飲食店)
- 自然環境の変化により、季節の旬の品物が変わってきており、仕入れに影響している。(飲食店)
- インバウンド、特に韓国人観光客の動きが大きく、売上の増加につながっている。(飲食店)
- インバウンド、国内の団体客が増えてきた。(飲食店)
- 昨年度より仕入価格が増加しているが、販売料金も引き上げており、利益は昨年より増加している。最低賃金の引上げ分をカバーできるだけ売上を伸ばしたい。(土産品)
- コロナ禍による旅控えが解消され、海外客を中心に観光客が増加し、売上額も増加した。(土産品)
- コロナ禍前の水準には届かないものの、家族連れやインバウンドの客数が回復した。(土産品)
- 認知の拡大と新事業の稼働により売上が増加した。(土産品)
- 観光シーズンのため好況だった。(土産品)
- コロナ禍が終息し、レジャー客やインバウンドの利用が増えた。利用料金を引き上げた。(レンタカー)
- 中国、韓国、台湾、インドなどインバウンドが増えたが、秋になり日本人客が増えた。(船舶貸渡業)

[来期の業況について]

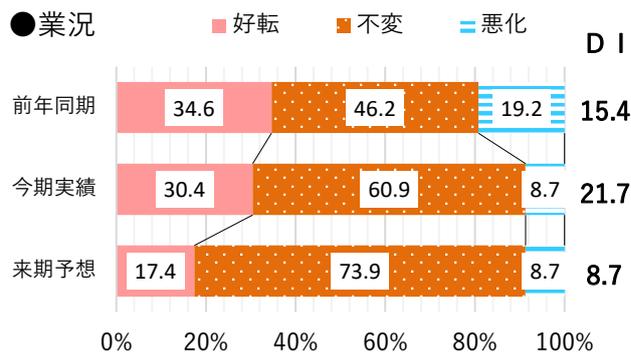
- インバウンド需要の更なる増加が見込まれる。稼働は大きく変わらないが、宿泊単価の上昇による業況の好転を見込む。物価高騰に伴い、経費が増加する。時給の見直し等を進め人材確保に務める。(ホテル)
- 前年よりも需要が高く、館内の工事もないため売上の増加を見込む。人材の確保が急務だ。(ホテル)
- 中国人観光客の回復を見込むが、人手不足の深刻化と仕入単価の上昇が懸念される。(ホテル)
- インバウンドの増加が続く。(ホテル)
- インバウンドの微増を見込む。人材不足が続く。(コテージ・ペンション)
- 原価や経費の高騰が続く。(コテージ・ペンション)
- 中国の動き次第で大きく変わると思われるが、団体ツアーが解禁されなければ、今期同様売上の増加傾向が続くだろう。仕入単価の上昇が続く中で10月から最低賃金が上昇し、厳しい面は多々あるが、今期の動きが続けば利益は確保できる。(飲食店)
- 外国人客数が増加すると、日本人客や地元の方が来店しなくなるため、売上は減少を見込む。(飲食店)
- DMの作成や価格設定に苦労している。年末にかけての人材確保も難しい。(飲食店)
- 客数の増加を見込む。(飲食店)
- 引き続き海外からのツアー客や国内客の増加が見込まれる。(土産品)
- 11月以降は観光シーズンが終わり、売上が減少する。(土産品)
- 閑散期のため、客数が大幅に減少すると思われる。(土産品)
- 店舗移転に伴い、売上の大幅増を見込む。(土産品)
- 認知拡大に努め、売上の増加を目指す。(土産品)
- 今期ほどの売上は見込めないだろう。(レンタカー)
- 人材不足のため早めに対処したい。(船舶貸渡業)
- 閑散期に向かうため、乗船客数、売上共に今期比で減少が見込まれる。(水運業)

サービス業

業況、売上、採算

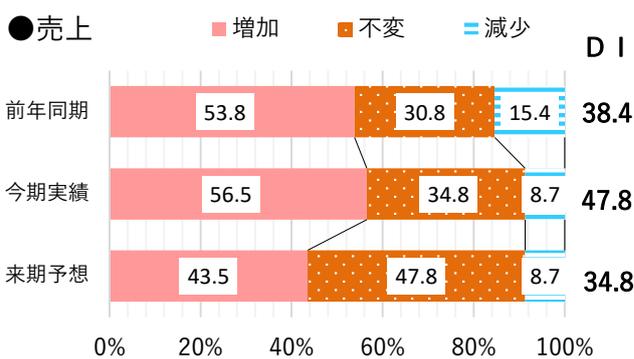
今期（2023.7～9）の業況判断DIは21.7で、前年同期（2022.7～9）と比べ6.3ポイント上昇しました。

来期（2023.10～12）は、業況の好転傾向が弱まると予想しています。



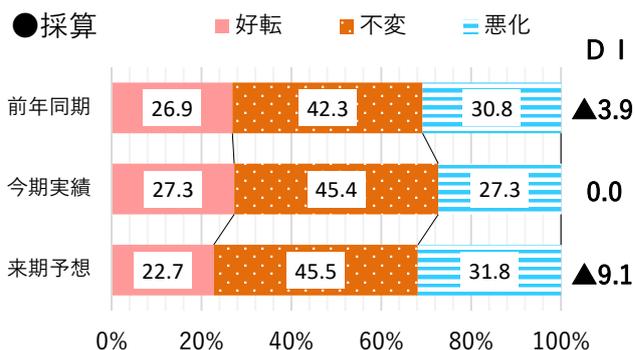
今期の売上高DIは47.8で、前年同期と比べ9.4ポイント上昇しました。

来期は、売上の増加傾向が弱まると予想しています。

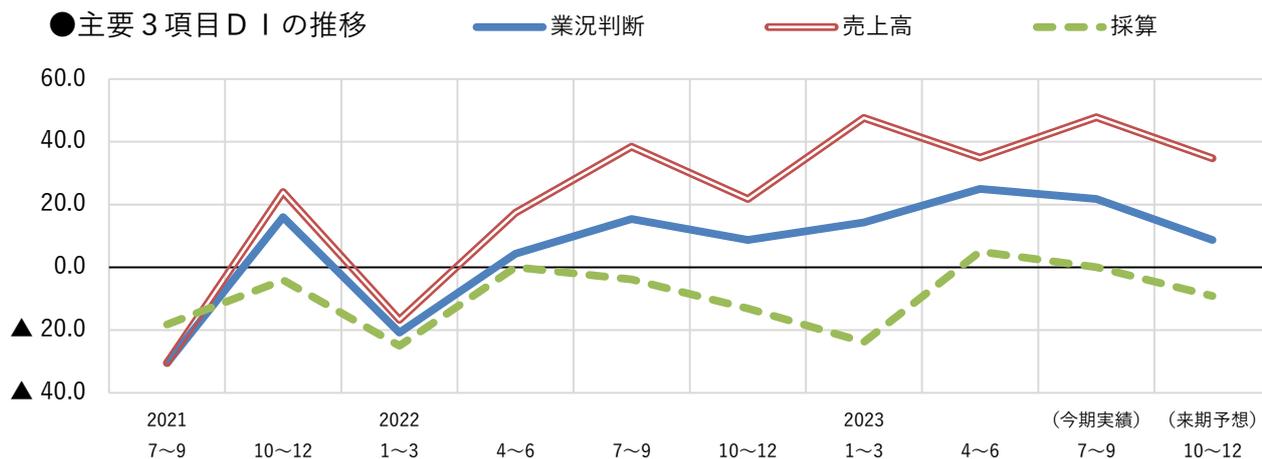


今期の採算DIは0.0で、前年同期と比べ3.9ポイント上昇しました。

来期は、採算がマイナスに転じると予想しています。



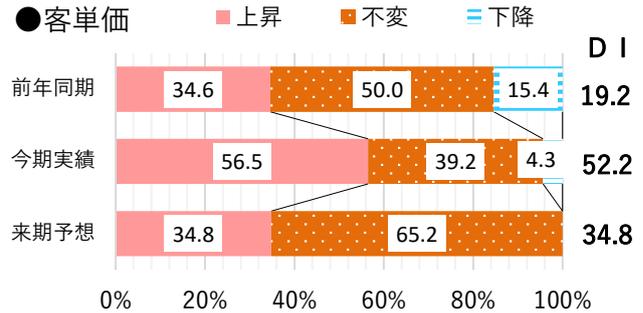
●主要3項目DIの推移



客単価、利用客数、仕入単価

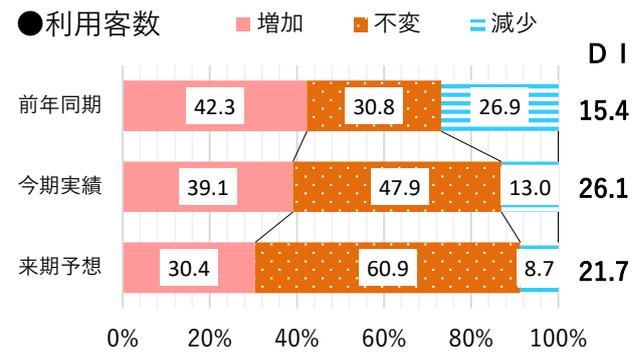
今期の客単価DIは52.2で、前年同期と比べ33.0ポイント上昇しました。

来期は、客単価の上昇傾向が弱まると予想しています。



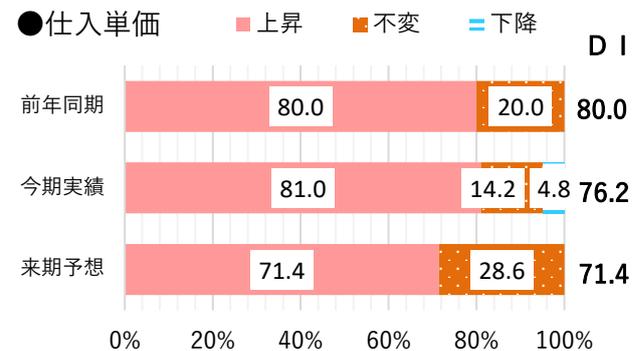
今期の利用客数DIは26.1で、前年同期と比べ10.7ポイント上昇しました。

来期は、利用客数の増加傾向が続くと予想しています。



今期の仕入単価DIは76.2で、前年同期と比べ3.8ポイント低下しました。

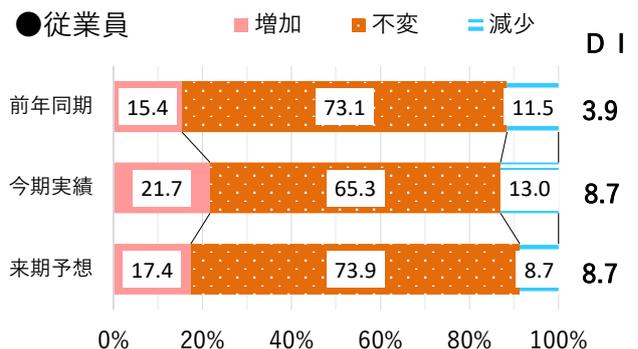
来期は、仕入単価の上昇傾向が弱まると予想しています。



従業員、今期の雇用状況

今期の従業員数DIは8.7で、前年同期と比べ4.8ポイント上昇しました。

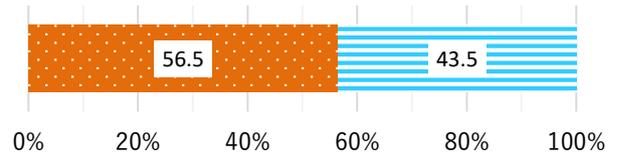
来期は、従業員数の横ばいを予想しています。



今期の雇用状況について、自社の従業員数が過剰であると回答した企業はなく、適正であると回答した企業の割合は56.5%、不足していると回答した企業の割合は43.5%でした。

従業員数と雇用状況の相関関係について、最も多かったのは「従業員数は前年同期比で変わらず、充足している」という回答で、39.1%を占めましたが、回答全体では43.5%の企業で従業員が不足しています。

●今期の雇用状況 ■ 過剰 ■ 適正 ■ 不足



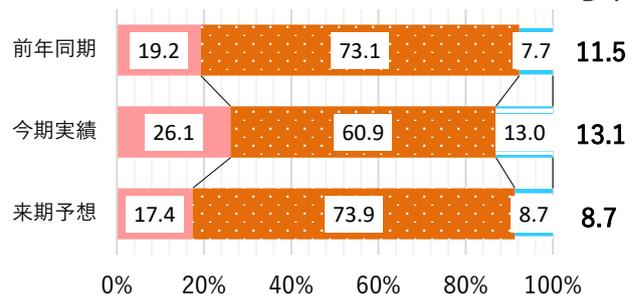
今期従業員数	今期の雇用状況	回答数
増加した	過剰	0
	適正	4
	不足	1
不変だった	過剰	0
	適正	9
	不足	6
減少した	過剰	0
	適正	0
	不足	3

資金繰り、設備投資

今期の資金繰りDIは13.1で、前年同期と比べ1.6ポイント低下しました。

来期は、資金繰りの好転傾向が弱まると予想しています。

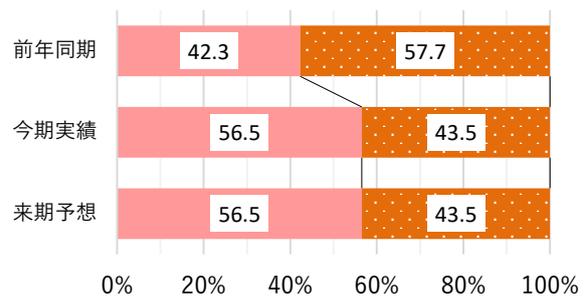
●資金繰り ■ 好転 ■ 不変 ■ 悪化



設備投資を実施した企業の割合は56.5%で、前年同期と比べ14.2%増加しました。投資内容は、1位が「車両運搬具」、 「OA機器」(同位)、2位が「サービス設備」の順です。

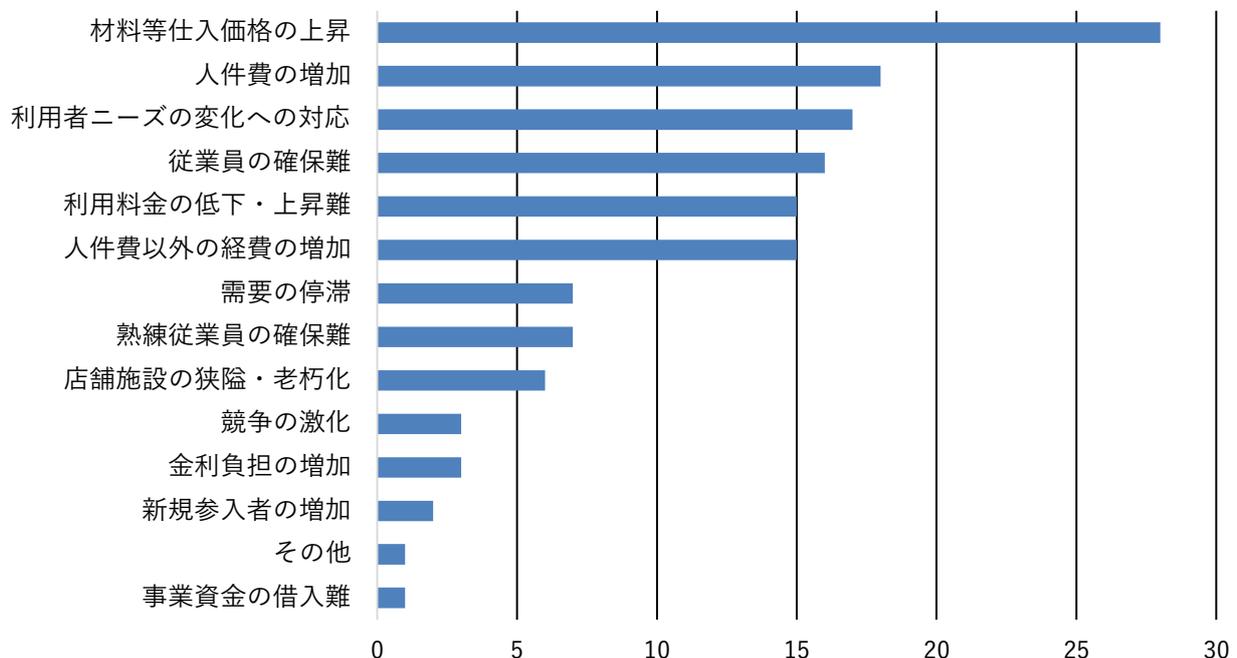
来期に設備投資を計画している企業の割合は56.5%で、横ばいを予想しています。

●設備投資 ■ 実施 ■ 未実施



経営上の問題点

今期直面している経営上の問題点は、1位が「材料等仕入価格の上昇」、2位が「人件費の増加」、3位が「利用者ニーズの変化への対応」の順です。



企業の声

[今期の業況について]

- 観光需要がある為なんとかこなしているが、年末年始の閑散期を考えると見通しは甘くない。仕入食材の高値が追い打ちをかけている。最低賃金の引き上げは良いが、扶養控除限度額を大幅に上げないと、人手不足に拍車がかかるため、大変困る。（飲食店）
- 市内イベントが開催されたことで、弁当などの注文が多かった。韓国人観光客の利用が多かった。小樽市民の客数減少や客単価の下降傾向が見られる。特に夜の客数減少が著しい。（飲食店）
- 前期と同じく仕入価格は上昇傾向にある。特に魚介類の高値が続いているが、来店客が多いので材料のロスがなく利益が出ている。（飲食店）
- 酷暑もあり、来客にムラがあったが、例年と変わらない状況だった。仕入価格は上昇が続く。（美容業）
- 売上は増加しているが、エネルギーや資材、人件費の高騰により経費も増加した。（ビルメンテナンス）
- 売上は増加したが、原材料価格の上昇に伴うもののため、利益は変わらない。（ビルメンテナンス）
- 売上が増加した。（ビルメンテナンス）
- コロナ禍を脱し、各種イベントが再開されたことで売上が増加した。（廃棄物処理業）
- 客数や売上は変わらないが、人件費や販管費が増加した。（不動産代理・仲介業）
- 新卒採用によりスタッフ不足が解消され、客数が増加した。（スポーツ施設）
- 夏季休暇中の定例的な業務や固定客からの売上は減少した。新規客からの売上は厳しかった。（写真業）
- 店舗合併による一時的な増収のため、好転とは言えない。（保険業）
- 売上は減少した。原材料とエネルギーの価格高騰により、資金繰りは厳しい。（写真業）
- 医療機関との取引が主のため、大きな変動はないが、病床の減少や閉院が目立つ。（各種物品賃貸業）
- 当初見込より取扱が伸び悩んだ。（旅行代理店）

[来期の業況について]

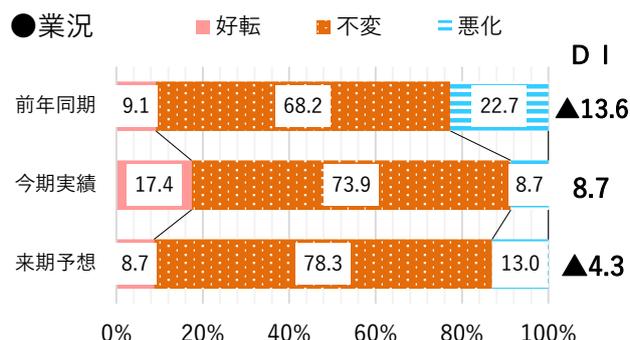
- 市民の来客が少ないため、売上の維持は難しいと思われる。（飲食業）
- 最低賃金が上がり、物価上昇や光熱費の高騰もあるため、料金の引き上げを検討している。ただ値上げするのではなく、より技術や商品をアップデートし、納得いただける値上げを目指す。（美容業）
- 今期同様の状況が続くか、人材不足による業況悪化を見込む。（ビルメンテナンス）
- 今期同様客数や売上は変わらず、人件費や販管費が増加すると思われる。（不動産代理・仲介業）
- 今期に引き続きスタッフを増員する。（スポーツ施設）
- 今期以上の増収は見込めないため、不変を見込む。（保険業）
- 年賀状の受付があり、今期と比べて売上が増加すると思われる。（写真業）
- 北海道内はどのエリアも人口減少が進んでいるため、医療機関も影響を受ける。省人化の提案により、商圏を確保したい。（各種物品賃貸業）
- 旅行業の収益は仕入価格の高騰と今期旅行需要のリバウンドで減少または不変を見込むが、旅行業務外の収益でリカバリーできるため、業況は不変を見込む。（旅行代理店）
- 魚介類の高値が続くが、客数と利益の増加を見込む。（飲食店）
- 売上は増加するが、資材や人件費の高騰により経費も増加すると考えている。（ビルメンテナンス）
- 最低賃金の引き上げ、仕入価格の上昇による採算の悪化を見込む。（ビルメンテナンス）
- 秋季の定例業務と固定客からの売上を見込む。（写真業）

建設業

業況、売上、採算

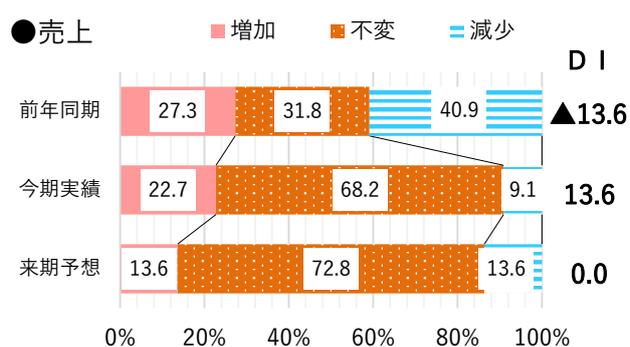
今期（2023.7～9）の業況判断DIは8.7で、前年同期（2022.7～9）と比べ22.3ポイント上昇しプラスに転じました。

来期（2023.10～12）は、業況がマイナスに転じると予想しています。



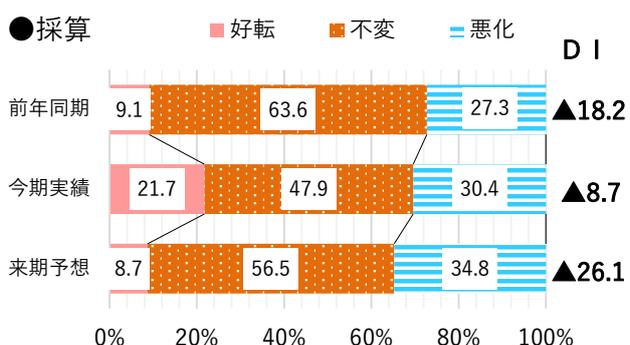
今期の売上高DIは13.6で、前年同期と比べ27.2ポイント上昇し、プラスに転じました。

来期は、売上の増加傾向が弱まると予想しています。

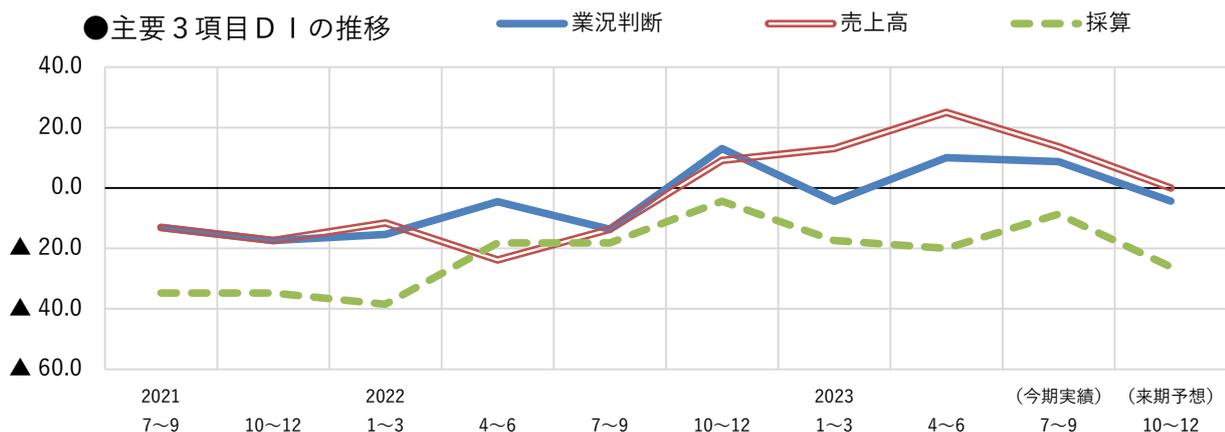


今期の採算DIは▲8.7で、前年同期と比べ9.5ポイント上昇しました。

来期は、採算の悪化傾向が強まると予想しています。



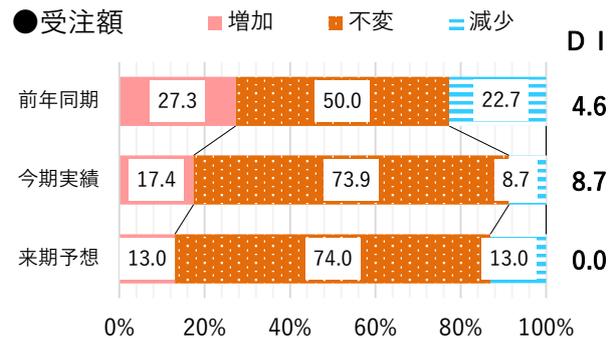
●主要3項目DIの推移



受注（新規契約工事）額、契約残（未消化工事高）、材料仕入単価

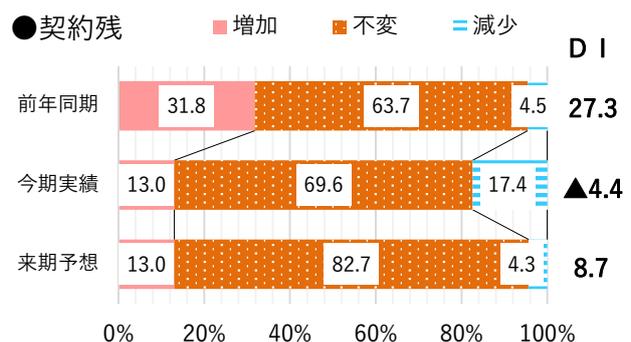
今期の受注額DIは8.7で、前年同期と比べ4.1ポイント上昇しました。

来期は、受注額の増加傾向が弱まると予想しています。



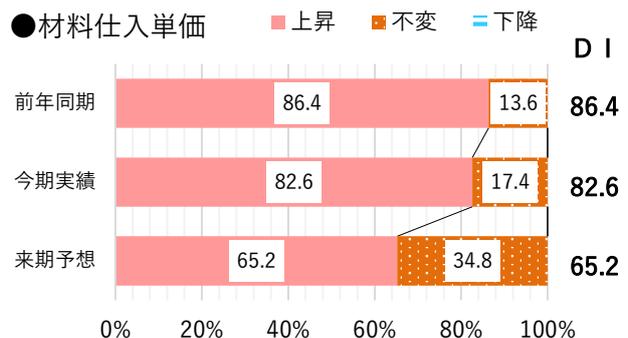
今期の契約残DIは▲4.4で、前年同期と比べ31.7ポイントと大幅に低下し、マイナスに転じました。

来期は、契約残がプラスに転じると予想しています。



今期の材料仕入単価DIは82.6で、前年同期と比べ3.8ポイント低下しました。

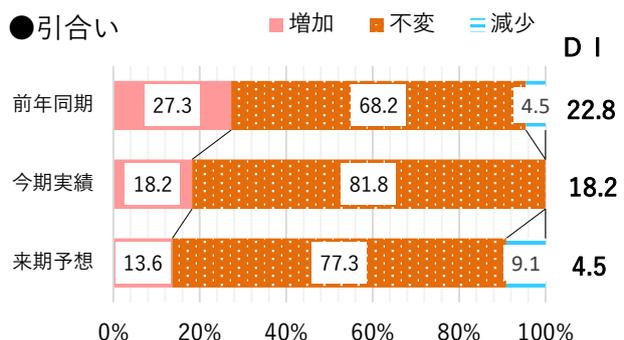
来期は、材料仕入単価の上昇傾向が弱まると予想しています。



引合い

今期の引合いDIは18.2で、前年同期と比べ4.6ポイント低下しました。

来期は、引合いの増加傾向が弱まると予想しています。



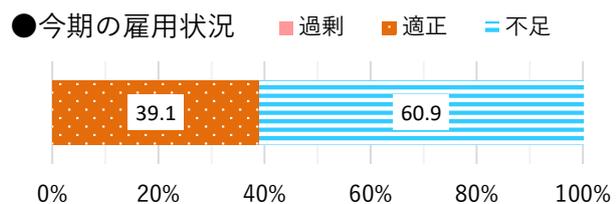
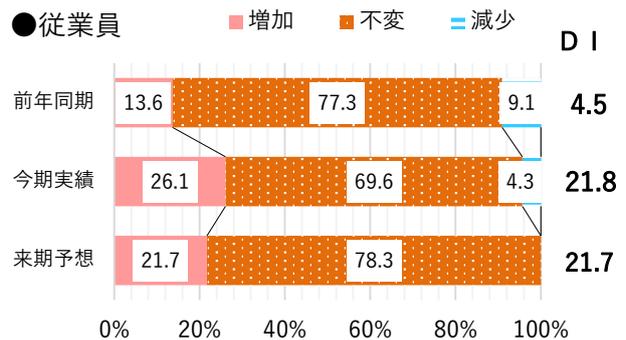
従業員、今期の雇用状況

今期の従業員DIは21.8で、前年同期と比べ17.3ポイントと大幅に上昇しました。

来期は、従業員数のほぼ横ばいを予想しています。

今期の雇用状況について、自社の従業員数が過剰であると回答した企業はなく、適正であると回答した企業の割合は39.1%、不足していると回答した企業の割合は60.9%でした。

従業員数と雇用状況の相関関係について、最も多かったのは「従業員数は前年同期比で変わらず、不足している」という回答で、39.1%を占めました。回答全体では、60.9%が従業員不足と回答しています。

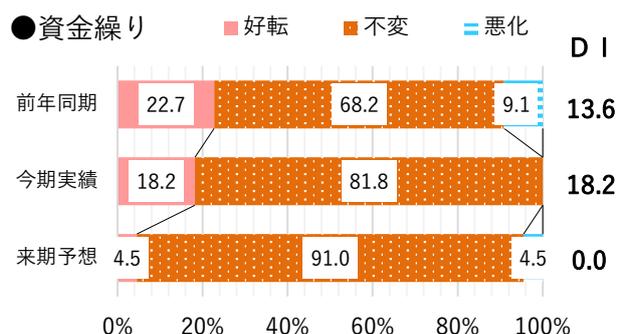


今期従業員数	今期の雇用状況	回答数
増加した	過剰	0
	適正	2
	不足	4
不変だった	過剰	0
	適正	7
	不足	9
減少した	過剰	0
	適正	0
	不足	1

資金繰り、設備投資

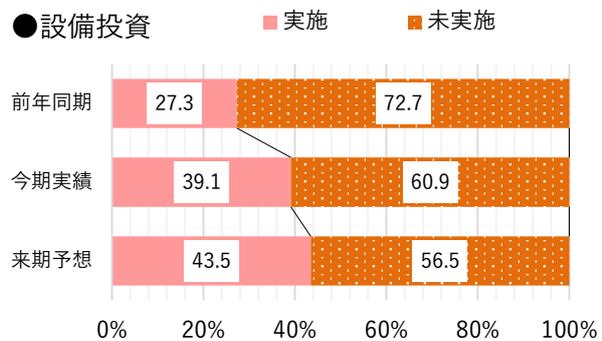
今期の資金繰りDIは18.2で、前年同期と比べ4.6ポイント上昇しました。

来期は、資金繰りの好転傾向が弱まると予想しています。



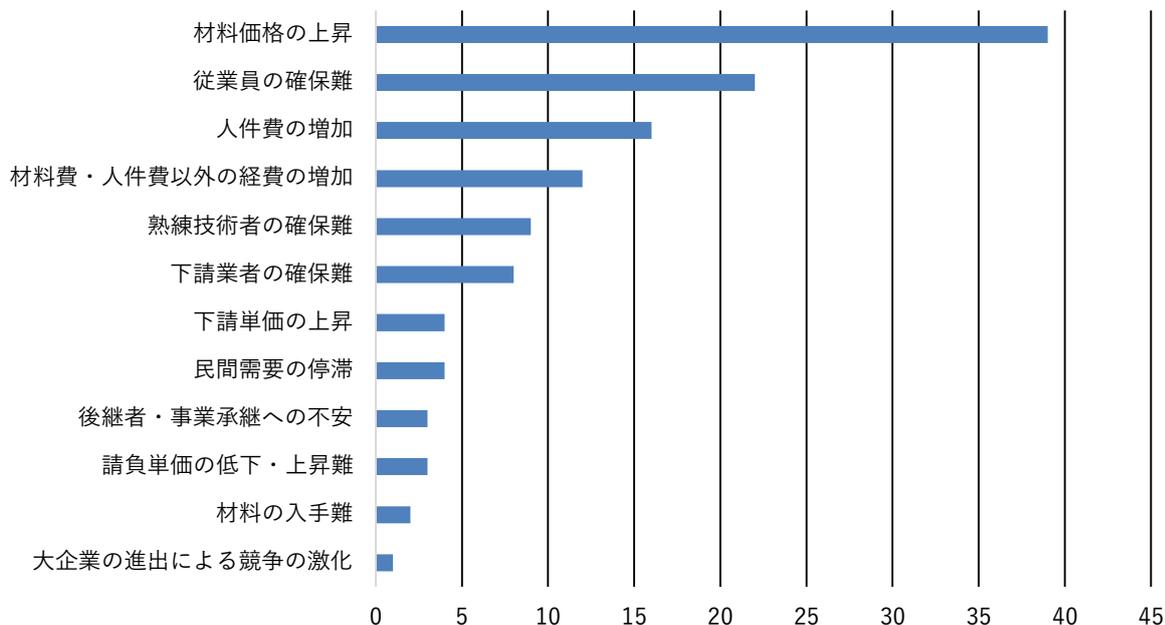
設備投資を実施した企業の割合は39.1%で、前年同期と比べ11.8%上昇しました。投資内容は、1位が「土地」、
「車両運搬具」、「OA機器」（同位）、
2位が「建物」の順です。

来期に設備投資を計画している企業の割合は43.5%で、上昇を予想しています。



経営上の問題点

今期直面した経営上の問題点は、1位が「材料価格の上昇」、2位が「従業員の確保難」、
3位が「人件費の増加」の順です。



企業の声

[今期の業況について]

- 人手不足や仕入価格の高騰にどのように対応するかが当面の課題だ。（一般土木工事業）
- 工事の売上は例年並みだった。仕入価格、人件費は増加した。（一般土木工事業）
- 人材確保に苦労している。仕入価格が上昇した。（一般土木工事業）
- 原材料に加え、経費の上昇が著しい。（一般土木工事業）
- 人件費、仕入価格等が上昇するも、受注金額への転嫁はできている。（一般管工事業）
- 原材料やその他部品の仕入単価、送料が上昇した。（職別工事業）
- 売上は前年と変わらないが、人材不足のため受注を制限している。材料仕入単価も上昇しており、利益率が悪化している。（設備工事業）
- 売上額は例年とあまり変わらないが、社員全員で経費等削減の努力をした結果、採算が好転し、利益率が上昇した。（電気通信・信号設置工事業）

- 民間工事の受注が減っている。(造園業)
- 受注件数に変化はなかった。(造園業)
- 仕入単価と燃料価格が高騰しているため、利益が出ない。(電気工事業)

[来期の業況について]

- 土木工事は例年並みと予測する。維持除雪は気象次第で変化する。(一般土木工事業)
- 人材の確保は難しいと思う。仕入価格の上昇傾向が続く。(一般土木工事業)
- 今期同様、人手不足や仕入価格の高騰への対応が課題だ。(一般土木工事業)
- 業界全体の人材不足、業者不足により、元請からの厳しい値引き要請はないと思われる。(一般管工事業)
- 人材不足が続くので、受注数の制限も続ける。(設備工事業)
- 今期と同程度の受注件数での推移を見込む。(造園業)
- 新規工事の予定はない。(造園業)
- 仕入単価と燃料価格の高騰が続くと思われる。(電気工事業)

市内企業倒産状況

2023年7月~9月

負債1千万円以上、東京商工リサーチ調べ

倒産件数は2件、前年同期比増加
負債総額は6億6,300万円、前年同期比増加

	倒産件数	負債総額
	<u>2件</u>	<u>6億6,300万円</u>
前年同期比	件数 +2件 (前年同期 0件)	負債 +6億6,300万円 (前年同期 0円)
■7月 なし		
■8月 家具製造業（負債3億2,800万円：既往のシワ寄せによる破産）の1件が発生した。		
■9月 衣料品販売（負債3億3,500万円：販売不振による破産）の1件が発生した。		

市内建築確認申請受付件数・新設着工住宅戸数状況

2023年7月~9月、小樽市建設部調べ

建築確認申請受付件数は63件、前年同期比減少
新設着工住宅戸数は41棟63戸、前年同期比減少

	建築確認申請受付件数	新設着工住宅戸数
	<u>63件</u>	<u>41棟63戸</u>
前年同期比	件数 -26件 (前年同期 89件)	戸数 -23棟114戸 (前年同期 64棟177戸)
※変更確認又は変更通知を除く。		